

2024（令和6）年度事業報告書

—2024年4月1日～2025年3月31日—



学校法人 聖隷学園

目次

1	法人の概要	…	1 頁
	(1) 基本情報	…	1 頁
	(2) 建学の精神	…	1 頁
	(3) 学校法人の沿革	…	2 頁
	(4) 設置する学校・学部・学科等	…	3 頁
	(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況	…	4 頁
	(6) 収容定員充足率	…	5 頁
	(7) 役員の概要	…	6 頁
	(8) 評議員の概要	…	7 頁
	(9) 教職員の概要	…	8 頁
2	事業の概要	…	1 0 頁
	(1) 主な教育・研究の概要	…	1 1 頁
	(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等） 及び事業計画の進捗・達成状況	…	3 1 頁
	(3) 施設等の状況	…	7 7 頁
3	財務の概要	…	7 8 頁
	(1) 決算の概要	…	7 8 頁
	(2) その他	…	8 4 頁
	(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、 今後の方針・対応方策	…	8 8 頁

1 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 聖隷学園

静岡県浜松市中央区三方原町3453

電話(代表) 053-436-5311

FAX 053-436-5355

H P <https://www.seirei.ac.jp/gakuen>

(2) 建学の精神

◆ 基本理念 「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」

聖隷学園は「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」というイエス・キリストの愛を基本理念としています。

イエス・キリストが自ら弟子の足を洗い手本を示されたように、行って同じようにすること、人と共にあり、共に生きることを人生の目的と喜びとすること、病人や障害を持つ人、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーが危険をおかし、命がけでイエス・キリストを背負ってライン河を渡ったように、これらの人々を大事にケアする人材が本学園から育つことを願っています。聖隷学園が教育環境の充実を図っていく中で願うことは、聖隷学園が地域の人々にとって役に立つ学園であってほしいということです。地域社会における医療・保健・福祉の質の向上に貢献する人材、さらには、アメリカ・ヨーロッパや開発途上国で国際的に活躍する人材が巣立っていくことを期待しています。

◆ 聖隷とは

新約聖書のヨハネによる福音書第13章に、最後の晩餐のとき、キリストは「食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」とあります。当時、人の足を洗うことは奴隷の仕事でしたが、キリストは弟子たちに行動を以って最後の教を示しました。「聖隷」の名はこの箇所由来しています。1926年(大正15年)4月、長谷川保らクリスチャンの若者たちは、奴隷の形をとって弟子たちの足を洗われるキリストの姿をクリスチャンの理想の生き方と考え、自分たちもキリストに倣い、「聖なる神の奴隷」となって世の人々に仕える生き方をしようと社会福祉事業を目的として聖隷社を創立。ここから「聖隷」の歴史が始まりました。

◆ クリストファーとは

「クリストファーChristopher」は、「キリストを運ぶもの・担うもの」という意味で、3世紀半ば頃の半伝説的殉教者の名前です。クリストファー伝説は、6世紀以後主にライン川流域に広がり、今なお欧州各地において多くの関心と尊敬を集め語り継がれています。伝説によれば、川の渡し守が、嵐の夜、小さい男の子が向こう岸に渡りたいということで、肩車をして渡すと川中で次第に重くなり、やっとの思いで向こう岸に着いたということです。岸に着いてみると、それはキリストであったといわれます。「重くなった」ということに2つの意味があるといわれています。一つは、この世の人々の苦しみ、悲しさの総量を表します。二つには、夜の早瀬や深みを渡るとき、自分より重いものを荷わなければ、自分自身も流れにのみこまれてしまう、ということです。以後キリスト教の精神を担うことの高貴さを表す名称となり、ヨーロッパ諸国に広まりました。

聖隷の創立者・長谷川保は、病人や障害者、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーがキリストを背負ったように、これらの人々を大事にケアする人が育ってほしいとの願いから「聖隷クリストファー」と命名しました。

◆ シンボルマークの由来



聖隷のシンボルマークは故アルバート・アットウェル（アメリカ人、1978～1981年聖隷学園に奉職）により1980年に考案されました。外側の二重円は、最後の晩餐で主イエス・キリストが弟子たちの足を洗った「たらい」を表現。内側の3つの円は、聖隷グループが使命とする医療（赤）、福祉（緑）、教育（青）を象徴しています。中央の十字架はキリスト教を示し、聖隷のすべての事業がキリスト教会の中から始まったことを示しています。

（3） 学校法人の沿革

1930 年	ベテルホームに結核患者収容開始
1936 年	浜松市三方原町の県有地 7 ヘクタール（21,000 坪）払下げになる
1939 年	迫害が激しくおこり経営困難極まる 12 月天皇陛下より特別御下賜金を受ける
1949 年	各種学校遠州キリスト学園開設
1952 年	聖隷准看護婦養成所開設
1966 年	学校法人聖隷学園設立 聖隷学園高等学校設置
1969 年	聖隷学園浜松衛生短期大学設置
1980 年	聖隷学園浜松衛生短期大学専攻科助産学特別専攻開設
1988 年	聖隷介護福祉専門学校設置
1992 年	聖隷クリストファー看護大学看護学部設置
1998 年	聖隷クリストファー看護大学大学院看護学研究科（修士課程）設置
2001 年	聖隷学園高等学校を「聖隷クリストファー高等学校」に名称変更
2002 年	大学に社会福祉学部を増設し、「聖隷クリストファー大学」に名称変更 短期大学を「聖隷クリストファー大学看護短期大学部」とする
2003 年	聖隷クリストファー高等学校移転改築
2004 年	大学にリハビリテーション学部、大学院に社会福祉学研究科（修士課程）を設置 看護短期大学部看護学科を募集停止し、看護学部を定員増
2006 年	大学院にリハビリテーション科学研究科（修士課程）を設置 高等学校に英数科を設置
2007 年	聖隷クリストファー大学看護短期大学部専攻科助産学特別専攻を廃止し、 大学に助産学専攻科を設置
2008 年	大学院に保健科学研究科（博士後期課程）を設置 大学社会福祉学部にくども教育福祉学科を設置
2009 年	聖隷クリストファー中学校設置
2010 年	大学看護学部養護教諭課程開設

2011 年	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園開設 大学社会福祉学部を社会福祉学科、臨床介護福祉学科及びこども教育福祉学科に改編 大学リハビリテーション学部を理学療法学科、作業療法学科及び言語聴覚学科に改編 大学院を看護学研究科、社会福祉学研究科、リハビリテーション科学研究科の 各博士前期課程・博士後期課程に改編
2013 年	大学社会福祉学部臨床介護福祉学科を、「介護福祉学科」に名称変更 大学院保健科学研究科廃止
2016 年	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校開設
2019 年	大学社会福祉学部こども教育福祉学科に小学校教諭課程開設
2020 年	聖隷クリストファー小学校開設
2022 年	聖隷クリストファー中学校「中高一貫コース」「グローバルスクールコース」制導入
2023 年	国際教育学部こども教育学科開設 社会福祉学部介護福祉学科廃止

(4) 設置する学校・学部・学科等（2024 年 5 月 1 日現在）

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘 要
聖隷クリストファー大学	1992 年	看護学部	看護学科	
	2007 年	助産学専攻科		
	2002 年	社会福祉学部	社会福祉学科	
	2008 年		こども教育福祉学科	
	2004 年	リハビリテーション学部	理学療法学科	2011 年度より 3 学科に改編
			作業療法学科	
			言語聴覚学科	
	2023 年	国際教育学部	こども教育学科	
	1998 年	大学院看護学研究科 博士前期課程（修士課程）		
	2011 年	大学院看護学研究科 博士後期課程		
	2004 年	大学院社会福祉学研究科 博士前期課程（修士課程）		
	2011 年	大学院社会福祉学研究科 博士後期課程		
	2006 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士前期課程（修士課程）		
	2011 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士後期課程		
聖隷クリストファー大学 介護福祉専門学校	2016 年	介護福祉学科		

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘 要
聖隷クリスティー 高等学校	1966 年	普通科		1974 年衛生看護科から移行
	2006 年	英数科		
聖隷クリスティー 中学校	2009 年	中高一貫コース		
	2022 年	グローバルスクールコース		
聖隷クリスティー 小学校	2020 年			
聖隷クリスティー大学 附属 クリスティーこども園	2011 年			

(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況（2024 年 5 月 1 日現在）

◆聖隷クリスティー大学・大学院

（単位：人）

		入学 定員	入学 者数	収容 定員	在 籍 者 数				
					1 年	2 年	3 年	4 年	合計
大 学 院	看護学研究科	15	14	35	14	12	15	－	41
	博士前期課程	10	9	20	9	9	－	－	18
	博士後期課程	5	5	15	5	3	15	－	23
	社会福祉学研究科	13	1	29	1	4	8	－	13
	博士前期課程	10	0	20	0	3	－	－	3
	博士後期課程	3	1	9	1	1	8	－	10
	リハビリテーション科学研究科	20	13	45	13	12	6	－	31
	博士前期課程	15	10	30	10	10	－	－	20
	博士後期課程	5	3	15	3	2	6	－	11
	大学院合計	48	28	109	28	28	29	－	85
大 学	看護学部	150	165	600	165	158	157	156	636
	看護学科	150	165	600	165	158	157	156	636
	助産学専攻科	15	17	15	17	－	－	－	17
	社会福祉学部	70	55	350	55	50	85	79	269
	社会福祉学科（※1）	60+10	55	270	55	50	51	49	205
	こども教育福祉学科（※2）	－	－	80	－	－	34	30	64
	リハビリテーション学部	95	106	380	106	89	102	108	405
	理学療法学科	40	43	160	43	49	41	50	183
	作業療法学科	30	41	120	41	23	37	28	129
	言語聴覚学科	25	22	100	22	17	24	30	93
	国際教育学部	50	43	100	43	51	－	－	94
	こども教育学科	50	43	100	43	51	－	－	94
	大学合計	380	386	1,445	386	348	344	343	1,421
総 合 計		428	414	1,554	414	376	373	343	1,506

※1… +10 は編入学生（2023 年度は+10） 3～4 年次の入学定員は 65

※2… 入学定員は 40

◆聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	収容 定員	在 籍 者 数		
				1 年	2 年	合計
介護福祉学科	40	12	80	12	19	31
総 合 計	40	12	80	12	19	31

◆聖隷クリストファー高等学校

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	総定員	在 籍 者 数			
				1 年	2 年	3 年	合計
英数科	94	59	282	59	66	59	184
普通科	200	235	600	235	265	291	791
総 合 計	294	294	882	294	331	350	975

◆聖隷クリストファー中学校

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	総定員	在 籍 者 数			
				1 年	2 年	3 年	合計
中高一貫コース	70	23	210	23	41	37	101
グローバルスクールコース		24		24	15	12	51
総 合 計	70	47	210	47	56	49	152

◆聖隷クリストファー小学校

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	総定員	在 籍 者 数						
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
総 合 計	60	31	330	31	41	46	48	44	24	234

◆聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

(単位：人)

	総定員	在 籍 者 数							
		0 歳	1 歳	2 歳	満 3 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
定員	225	15	15	15		60	60	60	225
1 号認定	135				2	40	49	45	136
2.3 号認定	90	2	18	15		15	14	14	78
総合計		2	18	15	2	55	63	59	214

(6) 収容定員充足率（毎年度 5 月 1 日現在）

学校名	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
聖隷クリストファー大学	99.2%	99.0%	97.9%	97.3%	98.3%
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	53.8%	57.5%	60.0%	55.0%	38.8%
聖隷クリストファー高等学校	96.7%	110.9%	119.7%	120.1%	110.5%
聖隷クリストファー中学校	57.6%	57.1%	56.2%	70.0%	72.4%
聖隷クリストファー小学校 ※2020 年度開校	76.7%	74.6%	80.0%	78.3%	70.9
聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園	100.8%	95.6%	97.3%	94.7%	95.1%

(7) 役員の概要

2025 年 3 月 31 日現在
定員数 理事 13 名、監事 2 名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
学園長	長谷川 了	常 勤	1980 年 3 月 29 日理事就任 1980 年 4 月専務理事就任 1989 年 4 月理事長就任 2024 年 5 月 24 日学園長就任
理事長	小柳 守弘	常 勤	2006 年 5 月 25 日理事就任 2006 年 11 月法人事務局長就任 2012 年 11 月専務理事就任（法人事務局長兼任） 2024 年 5 月 24 日理事長就任 （法人事務局長・企画部長兼任）
理 事	大城 昌平	常 勤	2017 年 4 月聖隷クリスティー大学学長就任 2013 年 5 月 23 日理事就任
理 事	上村 敏正	常 勤	2020 年 4 月聖隷クリスティー中・高等学校校長就任 2020 年 4 月 1 日理事就任
理 事	大野 和男	常 勤	2024 年 4 月聖隷学園宗教部総主任就任 2024 年 6 月 4 日理事就任
理 事	藤本 栄子	常 勤	2016 年 4 月聖隷クリスティー大学看護学部長就任 2016 年 5 月 26 日理事就任
理 事	太田 雅子	常 勤	2022 年 4 月聖隷クリスティー小学校校長就任 2023 年 4 月聖隷クリスティー大学国際教育学部長就任 2012 年 5 月 24 日理事就任
理 事	新宮 尚人	常 勤	2017 年 4 月聖隷クリスティー大学リハビリテーション学部長就任 2022 年 5 月 26 日理事就任
理 事	安藤 慎	非常勤	2024 年 5 月 23 日理事就任 （東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長）
理 事	青木 善治	非常勤	2021 年 4 月 1 日理事就任 （聖隷福祉事業団理事長）
理 事	山本 貴道	非常勤	2023 年 9 月 28 日理事就任 （聖隷三方原病院院長）
理 事	岡 俊明	非常勤	2018 年 11 月 28 日理事就任 （聖隷浜松病院院長）
理 事	砂原 和仁	非常勤	2020 年 5 月 28 日理事就任 （東京海上ホールディングス株式会社 人事部ウェルネス支援グループ シニアマスター）
監 事	平井 章	非常勤	2011 年 4 月 1 日監事就任 （前 十字の園理事長）
監 事	三輪 久夫	非常勤	2021 年 12 月 1 日監事就任 （浜松磐田信用金庫 専務理事）

前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
	なし		

2024 年 3 月 31 日以降の異動状況

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
【退任】			
理 事	永井 英司	常勤	2024 年 3 月理事 退任
理 事	田島 忠和	非常勤	2024 年 3 月理事 退任
【就任】			
理 事	安藤 慎	非常勤	2024 年 5 月理事 就任
理 事	大野 和男	常勤	2024 年 6 月理事 就任

役員賠償責任保険契約の状況(2025 年 3 月 31 日現在)

対象役員	契約内容の概要
理事・監事	契約者(団体)：日本私立大学協会 加入期間：1 年(2024 年 4 月 1 日 午後 4 時～2025 年 4 月 1 日 午後 4 時) 保険期間中総支払限度額：3 億円 免責金額：0 円

責任限定契約の状況(2025 年 3 月 31 日現在)

対象役員	契約内容の概要
安藤 慎	責任限度額：10 万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第 13 条に基づき定めた額)
青木 善治	責任限度額：24 万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に 2 を乗じた額)
山本 貴道	責任限度額：24 万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に 2 を乗じた額)
岡 俊明	責任限度額：24 万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に 2 を乗じた額)
砂原 和仁	責任限度額：10 万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第 13 条に基づき定めた額)
平井 章	責任限度額：24 万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に 2 を乗じた額)
三輪 久夫	責任限度額：24 万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に 2 を乗じた額)

(8) 評議員の概要

2025 年 3 月 31 日現在
定員数 27 名

氏 名	就任年月日	主 な 現 職 等
長谷川 了	1979 年 7 月 8 日	学校法人聖隷学園 学園長
小柳 守弘	2003 年 4 月 1 日	学校法人聖隷学園 理事長・法人事務局長・企画部長
大城 昌平	2013 年 4 月 1 日	聖隷クリストファー大学 学長
上村 敏正	2017 年 4 月 1 日	聖隷クリストファー中・高等学校 校長
藤本 栄子	2016 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー大学看護学部 学部長
太田 雅子	2012 年 5 月 24 日	聖隷クリストファー小学校 校長・大学国際教育学部 学部長

新宮 尚人	2022 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 学部長
安藤 慎	2024 年 5 月 23 日	東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長
仲 義之	2024 年 6 月 4 日	学校法人聖隷学園 宗教部主任
野田 由佳里	2022 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 校長
武田 真理子	2022 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 園長
佐藤 順子	2023 年 4 月 1 日	聖隷クリストファー大学社会福祉学部 学部長
柴本 勇	2022 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科長（大学院三研究科長代表）
敷浪 いづみ	2016 年 5 月 26 日	聖隷クリストファー中・高等学校 教頭
中村 憲司	2010 年 5 月 27 日	聖隷クリストファー大学 総務部長
鈴木 聡	2012 年 11 月 28 日	聖隷クリストファー小学校・グローバルスクールコース（中・高等学校）総務部長
紅谷 純	2018 年 5 月 24 日	聖隷クリストファー大学 同窓会会長
木村 忠雄	2007 年 4 月 1 日	聖隷クリストファー大学 同窓会副会長
田中 恵梨子	2023 年 9 月 28 日	聖隷クリストファー高等学校 同窓会長
宮崎 真理子	2024 年 5 月 23 日	聖隷クリストファー大学・介護福祉専門学校 後援会長
桑原 陽一	2024 年 5 月 23 日	聖隷クリストファー中・高等学校 P T A 会長
長澤 道子	2003 年 4 月 1 日	（社）牧ノ原やまばと学園 理事長
藤島 一郎	2005 年 4 月 1 日	浜松市リハビリテーション病院 特別顧問
稲松 義人	1997 年 4 月 1 日	（社）小羊学園 理事長
加藤 成久	2015 年 4 月 1 日	（社）神戸聖隷福祉事業団神戸聖生園 施設長
岡村 奈緒美	2021 年 12 月 1 日	（社）聖隷福祉事業団聖隷浜松病院 総看護部長
堀口 路加	1990 年 4 月 1 日	学校法人堀口学園 理事長、（社）愛の園福祉会 理事長

（９）教職員の概要（2024 年 5 月 1 日現在）

聖隷クリストファー大学・大学院 教員数

（単位：人）

	専 任					兼任	合計
	教授	准教授	講師 助教	助手	計		
看護学部	22	12	20	1	55	133	188
社会福祉学部	8	9	3	0	20	68	88
リハビリテーション学部	15	7	7	1	30	94	124
国際教育学部	4	1	2	0	7	40	47
助産学専攻科	1	2	0	0	3	30	33
合 計	50	31	32	2	115	365	480
平均年齢	52.3 歳						

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員数 (単位：人)

	専任	兼任	兼任	合計
介護福祉学科	3	17	4	24
平均年齢	45.7 歳			

聖隷クリストファー高等学校 教員数 (単位：人)

	専任	兼任	合計
普通科・英数科	45	33	78
平均年齢	45.9 歳		

聖隷クリストファー中学校 教員数 (単位：人)

	専任	兼任	合計
中高一貫コース・グローバルスクールコース	16	8	24
平均年齢	43.8 歳		

聖隷クリストファー小学校 教員数 (単位：人)

	専任	合計
小学校	25	25
平均年齢	43.2 歳	

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 教員数 (単位：人)

	専任	準職	合計
こども園	15	23	38
平均年齢	41.7 歳		

※準職員は 7.75h で 1 名換算

職員数 (単位：人)

	専任	準職	派遣	合計
法人	12	5	4	21
聖隷クリストファー大学 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	41	7	4	52
聖隷クリストファー中・高等学校	5	3	0	8
聖隷クリストファー小学校	4	4	1	9
クリストファーこども園	3	17	0	20
合 計	65	36	9	110
平均年齢	45.5 歳			

2 事業の概要

法人全体

①メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想

国際基準に合わせた医学教育（2023 年以降）の改革に対応するため、メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想を掲げています。

過去 6 年制医学部から 4 年制メディカルスクール（学部卒後）に移行したハーバード大学医学部、デューク大学医学部シンガポール校、オーストラリアディーキン大学・モナシユ大学、マレーシア、韓国（ソウル近郊）、フィリピンにおける医師養成状況事例を資料にまとめ検討材料の基礎としています。

②グローバルスクール設置準備

2026 年 4 月聖隷クリストファーグローバルスクール中高等部（仮称）定員 60 名という新たな学校設置に向けた準備をしています。2024 年 8 月に静岡県私学審議会の審議を経て正式に承認されました。小学校から継続する 12 年間の先進的なグローバル教育（国際バカロレアによる英語イマージョン教育・世界基準の探究型の学び）をより明確に実施していきます。

③中長期人事政策に向けた取組み

今後将来的に納付金や補助金の増額が見込めない一方、人件費比率は毎年 1%近く増加していく見通しがあり、財政的に非常に厳しい状況になっていきます。大学、中高の教員配置計画、教員年齢問題対応を含めた特任教員配置計画ならびに非常勤講師配置計画について、人件費比率を大学では 63%、中高では 60%、こども園では 70%以下を前提とした人事政策を実施しています。そのひとつとして、大学、専門学校、中高等学校、小学校、こども園、事務職員について人事評価制度を導入し、客観的説得力のある評価と処遇反映によるやりがいのある制度の構築に向けて、評価基準の整備、処遇反映方法等の調整を行なっています。

④地域における交流と信頼関係づくり

三方原地区における聖隷グループの各施設が共通する課題について話し合い、協調を図っていくことを趣旨として三方原サミットを開催しました。各施設、団体より当年度事業計画のトピックスを報告いただき、互いの事業への理解を深める機会としました。また、災害時対応として、地震災害を想定し三方原サミット災害対策本部、三方原サミット各施設合同でトランシーバーによる情報収集訓練を行いました。今後も定期的に訓練を実施していきます。

聖隷クリストファー大学

聖隷クリストファー大学は「キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の看護、リハビリテーション、福祉及び教育・保育の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉と教育・保育に寄与することを目的とする。」と大学学則の中に謳い、地域に貢献し、国際社会においても活躍できる専門職者を育成しています。

大学の中長期事業計画に沿って 2024 年度は、1) 入学者目標数の達成、2) 内部質保証システムの見直し、3) 入学者の学修力等の調査・分析による教育改革の推進、4) 大学リソースの地域還元と社会アピール、5) 大学院の高度化・発展に向けた教育課程・コース開設の検討、6) 教育環境の改善向上に向けた点検整備、7) 国際教育学部の将来構想の策定を重点課題に掲げて事業計画を立案を重点課題として取り組んできました。

2025 年度は 2024 年度の事業計画の評価をおこない、1) 入学者目標数の達成に向けた全学教職協働による学生募集・広報活動の推進、2) 社会福祉学部・国際教育学部の組織・教育課程：通信教育課程の検討、学部再編計画の検討、3) 学士課程における教養/共通科目の再構築(2027 年度新カリキュラムに向けて)、4) 大学院の教育課程の検討と社会福祉学研究科博士前期課程の心理学分野心理領域(公認心理師大学院カリキュラム対応)の開設準備(2026 年度に向けて)、5) 教育研究を充実させるために必要な環境の整備を全学的な重点課題に掲げて事業計画を立案し取り組みます。

(1) 主な教育・研究の概要

◆「卒業認定・学位授与の方針 (Diploma Policy)」 (以下「DP」)

看護学部の DP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 看護の基盤及び看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
4. 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
6. 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。

なお、養護教諭の教職課程のディプロマ・ポリシーについては、上記に加えて下記の通りとします。

- (1) 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
- (2) 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
- (3) 上記(1)と(2)を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。

社会福祉学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
3. 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
5. 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
6. 社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
7. 社会福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。

リハビリテーション学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
3. リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
6. リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。

国際教育学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。
2. 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。

3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
6. 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。

看護学研究科博士前期課程のD P

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のD P

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの活動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる。
3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる。

6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる。
7. 学際かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士前期課程のD P

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉分野における専門知識を習得し、福祉の人間学についての探究心を深め、論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、専門応用力を身につけ、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 先行研究をレビューした上で、自らの研究課題を発見し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通して、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

看護学研究科博士後期課程のD P

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映し自らの行動に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
4. 看護学分野の専攻領域の研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる。
3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら発見し、先行研究の調査と詳読を経て、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って実施し、自立した研究者・専門職者として論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧及び学問の発展に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルリーダーとして国内外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、高い倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる。
4. 自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 自らの研究を発展させ、研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と学術的な研究交流ができる。

◆「教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy）」（以下「CP」）

看護学部 CP

看護師を志すものとして身に付けるべき態度・知識・技能を習得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 人間や環境についての基礎知識を幅広い視野から体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の成長・発達段階及び健康段階、看護の場の特性を踏まえて、対象の理解と看護に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための看護専門領域—の3領域から行うものとします。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、多様な文化や価値観・生活背景を理解する人間教育に関わる大学教育導入科目と教養基礎科目を配置する。
2. 看護の対象者の課題を科学的・論理的、総合的に理解し、個別性に応じて支援するために、人が生きる環境や身体・心理面の健康、成長・発達を理解するための専門基礎、看護専門科目を配置する。
3. 様々な立場や意見、生活背景をもつ他者を理解し、自らの考えや意見を、対象に応じて正確・適切に、伝達・説明できるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を配置する。
4. さまざまな年代の多様な状況にある人々に対して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・理論、情報、技能等を総合的に活用し、根拠に基づく基礎的な看護技術を駆使し、看護を科学的に実践できる能力を養うために看護専門科目を配置する。
5. 課題解決に向けて、主体的・かつ仲間と協働して看護専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で検討するために、看護専門科目を置く。
6. 看護者の役割と責任を自覚し、保健・医療・福祉の関係職種と協働する能力を養うために、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際的視野で物事をとらえる能力を養うために、国内外の医療、保健、看護を学習する科目や語学、海外研修や国際看護実習を経験する科目を配置する。
8. 生涯に亘り看護学・看護実践を追求しようとする意欲と信念・価値観を養うために、これまでの看護学の学修を統合し、専門職としての自覚を高め、責務を理解し自己の看護観や研究的視点を深める統合科目を配置する。

養護教諭課程では、上記の看護学部のカリキュラム編成方針に加えて、養護教諭を志す者として身に付けるべき態度・知識・技能を修得するために、以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

- (1) 教職の意義や職務、教育に関する基礎的知識、児童生徒への理解・対応に必要な発達等の知識を修得するために、教職に関する科目を配置する。
- (2) 児童生徒の心身の健康課題に対応できる知識・技能を修得するために、養護に関する科目を配置する。
- (3) 学校現場において児童生徒や教職員と関わり、学校保健活動を行う実践力を養うために、教育実践に関する科目を配置する。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT など活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
S（90～100 点）到達目標を越えたレベルに達している。
A（80～89 点）到達目標をほぼ達成している。
B（70～79 点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
C（60～69 点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
D（59 点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

社会福祉学部の C P

社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士を志す者として身につけるべき態度・知識・技術を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 関連諸学の基礎知識や社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) さまざまな対象者の有する課題を科学的、論理的、総合的に理解し支援するために必要な社会福祉・介護福祉の基本的な知識と理論、及び技術を修得するための専門領域—の 3 領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、社会福祉、介護福祉の専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、物事を総合的に捉え的確に判断できる教養を養うために大学教育導入科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な社会福祉援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や社会福祉の各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するために専門基礎科目を置く。
3. 対象者を全人的に理解し、適切な対人関係を築くことのできるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。

4. 対象者を理解し、基礎的な社会福祉援助法の実践のため、各専門分野の基礎的な評価や援助技術を修得するために専門科目を置く。
5. 設定された課題や自身の疑問に対し、専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探究する態度と知識・技術を身につけるために専門科目を置く。
6. 社会福祉、介護福祉の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技術を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚及び語学力・表現力を養うために語学や海外研修及び国際福祉実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 S（90～100 点）到達目標を越えたレベルに達している。
 A（80～89 点）到達目標をほぼ達成している。
 B（70～79 点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 C（60～69 点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 D（59 点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

リハビリテーション学部の C P

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を志す者として身につけるべき態度・知識・技能を身につけるため、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 医学的基礎知識と、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の専門分野の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の疾患と病態、障害特性に応じた理学療法・作業療法・言語聴覚療法の実践に必要な検査・評価と治療・指導・援助に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための専門領域—の 3 領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を理解し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけるため、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く（講義）。また大学での学びの基礎を築き、知識の幅を広げ、物事を総合的に捉える的確に判断できる教養を養うため、大学教育導入科目と教養教育科目を置く。
2. 疾患や病態、心身機能の障害特性を理解し、適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法が実施できるようになるため、医学的基礎知識及び各専門分野の基礎的な知識・理論を体系的に理解し、技能を修得する専門基礎科目を置く。
3. 対象者の価値観や立場を尊重した適切な対人関係を築くため、コミュニケーション力と実践力及び自己分析能力を養うキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自身の専門分野や関連諸学の学識を統合し課題を探究する態度と研究方法論を身につけるため、専門科目、研究基礎科目及び各分野の発展的専門科目を置く。
5. 対象者の疾患と病態、障害特性を適切に理解し、基礎的な理学療法・作業療法・言語聴覚療法の基礎的な検査・評価と治療・指導・援助技能を修得するため、専門科目及び臨床教育科目を置く。
6. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するため、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際感覚及び語学力・表現力を養うため語学や海外研修及び実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
S（90～100 点）到達目標を越えたレベルに達している。
A（80～89 点）到達目標をほぼ達成している。
B（70～79 点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
C（60～69 点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
D（59 点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教

育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

国際教育学部のCP

教育・保育の専門職者を志すものとして身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 教育や関連諸学の基礎知識を修得する専門基礎科目 3) 対象者の多様性を理解し、課題を探究し、実践するために必要な教育・保育及び関連諸学の知識と理論、及び技能を修得するための専門科目から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動できるようになるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な教育・保育の指導・援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するための専門基礎科目、専門科目を置く。
3. 大学での学びの基礎を築き、様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけるために、大学教育導入科目と専門科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自分の専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探究する態度と知識、技能を身につけるためにキャリア教育科目と専門科目を置く。
5. 各専門分野の基礎的な評価や指導・援助の技術を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を身につけるために専門科目実習・演習・インターンシップ科目を置く。
6. 教育・保育の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的な視野、国際感覚を培うための語学、国際バカロレア関連科目、海外研修、国際ボランティア及び国際教育実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。

S（90～100点）到達目標を越えたレベルに達している。

A（80～89点）到達目標をほぼ達成している。

B（70～79点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。

C（60～69点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。

D（59点以下）最低限のレベルに到達していない。

3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

看護学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。
4. 高度実践看護コースにおいては、高度看護実践に必要な高い専門知識と高度看護実践能力を修得するための資格認定に必要な科目を置く（基盤科目・専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論、専門的臨床技能及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と社会福祉学に求められる関連諸科学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉原理・援助領域に必要な各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

看護学研究科博士後期課程のＣＰ

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、実務者として高度な知識と指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のＣＰ

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、倫理観、学識、幅広い知識、人間性及び指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士後期課程のＣＰ

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 社会福祉の高度専門職として、多職種連携ができる資質を磨き、高度な知識と指導力を身に付けるための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉学の自立した研究者として、専門性を進化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

◆「入学者受入れの方針（Admission Policy）」（以下「AP」）

看護学部のアP

○どのような力を発展・向上させるのか

看護学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供するために、進歩する看護専門分野及び関連諸学の知識と技能を統合し、多職種連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できる看護学分野の指導的人材として労を厭わぬ実践ができる看護専門職者を育成することを目的とします。

○求める学生像

- ・自分と同じように、他の人々を尊ぶことのできる人間性を備えた看護専門職を志す人
- ・科学的思考力を身につけ、深い教養に支えられた看護専門職をめざして学ぶ意欲のある人
- ・他の医療保健福祉分野の専門職を志す仲間と共に連携・協働して課題解決することに関心が高い人
- ・看護専門職として社会に貢献する意欲のある人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、他者による表現を理解出来る読解力と、自己の考え・感情を適切に表す表現力
- ・地理歴史・公民については多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、論理的な思考を可能とするための数学的素養
- ・理科については、看護を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、広く国際社会の人達とのコミュニケーションを実現できる能力としての英語理解と英語による表現力

○入学者選抜の基本方針

看護学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。看護学部の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、社会人選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・理解、思考力・判断力・表現力）を評価します。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ます。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を評価します。

社会福祉学部のアピール

○どのような力を発展・向上させるのか

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、地域の福祉と生活上の困難を抱える人々の自立を支援する高度な知識・技術と関係多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた福祉専門職の育成を目指しています。そのために地域と支援を必要とする人々を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、社会福祉、介護福祉、心理の専門知識、技術を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、社会的不公正を問う人
- ・人とかかわり、多くのことを吸収し、協働を大切にすること人
- ・社会福祉、介護福祉、心理を学び、この分野でリーダーとして活躍したいという強い意志と意欲をもつ人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、論理的思考をするための基礎となる読解力、表現力・地理歴史・公民については、地域社会に働きかける専門職者として、社会福祉に関する法律・制度を理解し、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、問題解決を可能とするための論理数学的思考力
- ・理科については、専門領域を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力

○入学者選抜の基本方針

社会福祉学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、3年次編入学試験を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ています。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見ています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見ています。

○どのような力を発展・向上させるのか

リハビリテーション学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できるリハビリテーション分野の指導的人材となる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を育成することを教育目的とします。したがって、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として必要な「相手の心を理解し尊重するという基本的態度」と「高度な専門的知識及び実践的な専門技能」の二つの能力を修得し発展・向上させます。

○求める学生像

上記の人材育成を目標としていることから、次のような資質を有する学生を求めています。

- ・ 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」を尊重し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として人格を磨くことのできる人
- ・ 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の使命と役割を理解し、それを担う意志のある人
- ・ 教養と理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の知識と技能を身につけ成長するため、自ら学ぶ意欲のある人
- ・ 他の医療保健福祉分野の専門職者と多職種連携・協働して課題解決に努め、リーダーとして成長しようとする人
- ・ 理学療法学・作業療法学・言語聴覚学分野の発展と、地域社会及び国際社会の課題解決に貢献するため自己研鑽できる人
- ・ 理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の学問の発展のために国内外で学究活動に携わることを志す人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人の心身機能・構造及び活動とそれらの障害を理解し、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の理論と技能を修得する上で、高等学校までに次のような基礎学力を有していることが望まれます。

- ・ 国語については、物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、言語による思考力及び伝達力
- ・ 地理歴史・公民については、多様な文化や歴史、価値観、生活背景をもつ他者を理解するために必要な基礎知識
- ・ 数学については、論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能
- ・ 理科については、自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識
- ・ 英語については、国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

リハビリテーション学部では、学力の3要素である①「基礎的・基本的な知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性をもって他者と協働して学ぶ態度」を総合的にみる、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、グループワーク、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）をみます。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や課外活動の履歴から、主体性や協調性をみています。
- ・グループワークでは、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・面接では、目的意識、意欲、自己表現力、目標や将来のビジョンを確認しています。
- ・小論文では、総合的な読解力、発想力、論理的思考力、表現力をみています。

国際教育学部のA P

○どのような力を発展・向上させるのか。

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、人類のウェルビーイングに向けた教育のために、国際的視野を持ち、関連する機関・職種の人々と協働し、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた教育・保育専門職者の育成を目指しています。そのために世界・地域や対象者を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、教育・保育の専門知識、技能を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、持続可能な社会の創造と発展に寄与する熱意のある人
- ・人とかかわり、多くのことを吸収し、協働を大切にすること
- ・よりよい教育・保育の実現を目指して、高い倫理観と使命感をもって主体的に学修に専念する人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、教育・保育の専門職者として論理的思考及びコミュニケーション力を支える読解力、表現力
- ・地理歴史・公民については、教育・保育の専門職者として、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、教育・保育の専門職者として、問題を系統立てて考え、解決に導くための論理数学的思考力
- ・理科については、教育・保育の専門職者として必要となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力と「世界」に視野を広げる挑戦意欲とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

国際教育学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ています。
- ・面接では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見ています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見ています。

看護学研究科博士前期課程の A P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の実践に必要な基本的倫理、知識、技能を備えより良い実践のため探求する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、自分の意見を述べることができる人
4. 看護の実践の中で生じた課題を解決するために、他者の意見を聞くことができる人
5. 自律的に活動し、主体性を持って課題解決に向け学修できる人

リハビリテーション科学研究科博士前期課程の A P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の実践や研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. リハビリテーション科学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践の中で生じた課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする意欲を持っている人

社会福祉学研究科博士前期課程の A P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、社会的に問題を口頭及び文書で論理的に説明できる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決、科学的な分析、研究に意欲を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、専門職連携、多職種連携、協働の視点を持っている人

看護学研究科博士後期課程の A P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の専門職の実践に必要な知識・能力を備え、看護学を探究する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題について、研究的視点を持ち自立して研究に取り組む意欲のある人
4. 看護領域の課題解決に向けて、他の専門職や研究者と協働することができる人
5. 学術的かつ国際的に視野を広げることに関心を持ち、看護学の発展に貢献する意欲のある人

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究を行った経験を有している人
3. リハビリテーション科学領域の研究課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践や研究の中で生じた独創的課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学び、将来共に活動する志向を持っている人

社会福祉学研究科博士後期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究を行った経験のある人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に説明し、社会的に問題の改善ができる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決に意欲と科学的な分析力、研究方法を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、主体性を持って専門職連携、多職種連携を図り、協働のネットワークを構築する人

聖隷クリストファー中・高等学校

◆本校の目標

- ① 建学の精神である聖書の言葉「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」に立ち、「誰かの幸せを、自分の喜びに」できる生き方を模索する。
- ② 「隣人愛を基盤とした聖隷学園一貫グローバル人材推進構想」を実現し、日本と世界に発信し、地域に信頼される学校を目指す。

生徒一人一人が、この学園での学びを通して、自分に与えられている個性や賜物(たまもの)を発見し、人生の意味を考え進路を選び、この学園で培われた価値観を土台として歩む人となるよう願っています。

普遍の価値に軸足を置き、多様に変化する現代社会に責任を持って関われる、躍動する学園であることを目指します。

聖隷クリストファー小学校

◆本校の教育理念

キリスト教精神の隣人愛を基に、日本文化を理解した上で、グローバル社会に貢献できる児童の育成を目指します。

そのために、奉仕活動や学校生活を通して、他人を思いやる心や行動力を養います。また、身の回りの現象を題材にしながら教科横断型の探究学習で、探究力、思考力、コミュニケーション力や表現力を養います。それが基礎となり、母語の日本語を重視した上での英語イマージョン教育を行うことによって、二言語習得を目指し、多様な見方や場に応じた志向・判断ができる人を育てます。

このように、隣人愛に根差し、探究学習と英語イマージョンを融合した聖隷の教育によって、未来に向かって主体的に学んでいく力や自信をもって挑戦していく姿勢が身につくよう、一人ひとりの子どもを大切に導いていきます。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園（以下クリストファーこども園）は、2011年4月に静岡県西部で初めて開園した「幼保連携型認定こども園」です。園の基本理念である「キリスト教主義を基盤に心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」の下、「愛・思いやり・たくましさ・いのち・表現力・自立」を園の目標として、主体性や意欲、他者を思いやる心など豊かな人間性を育てていくとともに、異年齢や多様な人々との関りを通して、人と関わる力が育まれることを目指しています。2021年度より、クリストファー小学校との一体的プログラムとして、国際バカロレア 初等教育（IB PYP）の導入に取組み、2024年2月にIBワールドスクールとして認定されました。引き続き連携を図り、「聖隷IBモデル」の実現に取り組みます。

◆基本理念

「キリスト教主義を基盤に、心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」

◆基本方針

- ① 聖隷学園の建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書に示される愛の心をもつことを願っています。創造主（神）から一人ひとりに与えられた尊い命＜が守られながら、生き活きと伸びていき、それぞれの内側にある力が十分に発揮されると同時に、多様性と調和を大事にし、世界の平和に貢献しようとする姿勢を育みます。
- ② 発達や学びの連続性という視点から小学校への接続を意識し、就学前の教育・保育を一体的・総合的に展開します。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に沿って「生きる力」の基礎を身につけていくことを目標とします。
- ③ 保護者や地域住民のために子育て支援を充実させます。皆で子どもの成長を助け喜び合えるように、子どもに関わるあらゆる分野の人々が協力し、子育て環境の向上に努めます。
- ④ 聖隷クリストファー大学附属の園として、大学の教員と協力し、保育の質の向上のために、また乳幼児を取り巻くさまざまな問題の解決のための実践的研究を行います。その成果を公

開・発表し、幼児教育・保育業界のモデルとなる保育プログラム作りを目指します。

◆園目標

- ＜愛＞ 神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にする気持ちをもつ。
- ＜思いやり＞ 様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
- ＜たくましさ＞ 自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
- ＜いのち＞ 食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
- ＜表現力＞ 自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
- ＜自立＞ 生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

◆保育の特色

- ① 自然の中での多様でダイナミックな体験を通して、生き活きとたくましく成長することを目指しています。
- ② 多様な文化の理解と尊重の精神を培い、より良い、より平和な世界を築くことに貢献しようとする姿勢、探究心、知識、思いやりの態度を育みます。
- ③ 大学やその他の専門機関との連携により学問的根拠に裏づけられた、質の高い幼児教育・保育を実践し、子どもの健全な育ちを目指しています。
- ④ 皆で子どもの成長を助け喜びを共有するという意識に立って、子育て支援の充実、子育て環境の向上に努めています。

(2) 中期的な計画（教務・人事・施設・財務等）及び事業計画の評価

聖隷クリストファー大学

中長期事業計画「未来創造躍進プラン」

＜建学の精神＞ キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」

＜教育理念＞ 建学の精神を教育・研究・諸活動の基本理念とし、建学の精神に裏付けられた保健医療福祉・教育の専門職業人を育成することによって、人々の健康と幸福、そして地域と世界の福祉に貢献します。

＜ビジョン＞ 保健医療福祉・教育の未来を創造する 教育・研究・実践のフロンティア大学

＜キャッチコピー＞ 隣人愛と知の技で 共に生きる社会の実現へ 聖隷クリストファー大学

＜ミッションステートメント＞

- 1) 建学の精神であるキリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を大学運営並びに教育・研究・実践に活かし、人々の幸福と健康、地域とアジアの保健医療福祉・教育の未来創造に貢献する。
- 2) 保健医療福祉・教育の総合大学としての学際性を活かした独創的教育を提供し、建学の精神に裏付けられた豊かな人間性と倫理観、教養と専門的知識・技能を兼ね備え、一人ひとりのために労を厭わぬ専門職を育成する。
- 3) 大学院博士前・後期課程をもつ大学として、卓越した研究成果と知を創造し、保健医療福祉・教育の発展に貢献する高度専門職者並びに研究・教育者を輩出する。
- 4) 社会に開かれた大学として、地域社会における保健医療福祉・教育に関する教育・研究・実践の拠点を形成し、共生社会の実現への使命を果たす。
- 5) 国際的な保健医療福祉・教育の課題解決に向けて、本学の人的・知的・技術的・教育環境の資源（聖隷ブランド）を活かした国際支援及び人材育成により国際貢献に資する。
- 6) 時代を先見し、自律的な自己点検評価と大学改革の実行により、保健医療福祉・教育のモデル大学として学界・教育界をリードする。
- 7) 教職員一人ひとりが個人として尊重され自律性が認められるとともに、自己成長と協働により大学（聖隷学園）の新たな価値創造と発展に努める。

＜長期目標（10 年後）＞

- 【教 育】建学の精神と教育理念のもと、聖隷ブランドを活かした先進的かつ独創的な教育環境と教育課程及び教育方法による「聖隷教育モデル」を創出する。
- 【研 究】保健医療福祉・教育分野の独創的かつ学際的な研究を推進するとともに、国内及びアジアの中核となる研究・教育拠点を形成し、新たな学問体系を創造する。
- 【学生支援】 隣人愛の精神を涵養し、主体的に豊かな学生生活を送ることができる「愛と活気あるグローバルキャンパス」をつくり、愛校心と帰属意識を醸成する。
- 【就職・キャリア支援】保健医療福祉・教育の動向と展望に基づいた病院施設等との連携体制の再整備と、卒業生・同窓会との強固なパートナーシップに基づく相互支援体制を構築する。
- 【地域連携】 地域の保健医療福祉・教育の基幹大学として、地域の保健医療福祉の発展に向けた大学-地域連携による教育・研究・実践の地域モデルを構築する。
- 【国 際 化】 国際的に競争力ある大学を目指して、積極的に国際交流・支援及び人材育成を展開し、アジアの保健医療福祉・教育の教育・研究・実践のハブ（Hub）大学に発展する。
- 【学生募集】 情報と企画に基づく戦略的広報活動と、高大連携及び幼小中高大・卒業生循環型の募集活動等により、募集定員を堅持するとともに、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づいた人材を受け入れる。
- 【基盤整備】 質の高い教育・研究を支える人事・組織・施設設備の充実を図るとともに、内部質保証システムに基づいた自律的な自己点検・評価を実施し、大学運営及び教育研究の質の向上を促す。また、建学の精神と教育理念を遵守・維持し継続的発展を担う幹部教職員を育成する。

<中期・短期計画一覧>

重点課題

- (1) 入学者目標数の達成に向けた全学教職協働による学生募集・広報活動の推進
- (2) 社会福祉学部・国際教育学部の組織・教育課程：通信教育課程の検討、学部再編計画の検討
- (3) 学士課程における教養/共通科目の再構築（2027年度新カリキュラムに向けて）
- (4) 大学院の教育課程の検討と社会福祉学研究科博士前期課程の心理学分野心理領域（公認心理師大学院カリキュラム対応）の開設準備（2026年度に向けて）
- (5) 教育研究を充実させるために必要な環境の整備

学部	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
看護学部	①学部・専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③社会の看護師養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部・専攻科－大学院（CNS・NPを含む）－特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。	・標準修業年限卒業率：95%以上 ・国家試験の合格率：全国大学平均値以上 ・卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60p以上 ・就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：70p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：95%以上
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇新カリキュラムの着実な推進と評価 ◇看護教育推進のための教育環境の整備と充実 ◇地域住民の健康推進への貢献と、看護教育の連携による新たな教育展開 ◇大学院における新たな展開を学部教育に反映し、学生のキャリア形成につながる、広がりを持った学部-大学院教育の充実 ◇5年先を見据えた教員配置と人材育成 ◇専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた教育課程の実践（助産診断・技術学のアセスメント能力と助産診断能力の定着）と評価体制を構築する。	

学部	中期目標(2024～2026 年度)	中期目標:客観指標(2024～2026 年度)
リハビリテーション学部	①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③国際リハビリテーションコース(2024 年度終了)および国際保健医療福祉プログラム(2022 年度開始)の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。 ④地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。	・標準修業年限卒業率:95%以上 ・国家試験の合格率:全国大学平均値以上 ・国際コース・プログラム履修者:5 名 ・国際的活動に関連する進路選択:1 名(進路)国際支援に関連する団体施設等への就職、大学院、留学など ・「地域リハビリテーション実践教育センター(仮称)」を 2025 年度に開設する。 ・卒業生満足度「卒業前に:この大学で学べたことは有意義であった」:PT 学科・OT 学科 60p以上／ST 学科 50p以上 ・就職満足度「進路について:希望する進路先に就職、または進学することができた」:PT 学科・OT 学科 60p以上、ST 学科 50p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」:90%以上
	中期・短期計画(2024～2026 年度)	
	◇国際リハビリテーションコース(2024 年度修了)および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開(大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供) ◇企業との連携体制の強化による新たな教育方法の導入と教育成果の検討 ◇リハビリテーション学部 20 周年記念事業の実施(2025 年度)および「フィジオトレーニングルーム」の開設(2026 年度) ◇新カリキュラム(2025 年度入学生から)における、学部・学科の教育特長を活かした教育内容の実施	

学部	中期目標(2024～2026 年度)	中期目標:客観指標(2024～2026 年度)
社会福祉学部	①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士(公認心理師)を養成し輩出する。 ④社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士(公認心理師)を養成し輩出する。	・標準修業年限卒業率:95%以上 ・国家試験の合格率:全国大学平均値以上 ・介護福祉士取得希望者:20 名 ・社会福祉士取得希望者:45 名 ・精神保健福祉士取得希望者:25 名 ・公認心理師取得希望者:15 名 ・卒業生満足度「卒業前に:この大学で学べたことは有意義であった」:60p以上 ・就職満足度「進路について:希望する進路先に就職、または進学することができた」:60p以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」:95%以上
	中期・短期計画(2024～2026 年度)	
	◇入学定員の充足 ◇福祉心理コースの円滑な運営 ◇教育課程の評価・見直し ◇教員体制と教育環境の充実 ◇介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の人材育成と輩出 ◇「子ども家庭ソーシャルワーカー」養成に向けての情報収集、対応の検討 ◇海外研修の場の開拓 ◇こども教育福祉学科の小学校教員採用実績の維持・向上 ◇小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援 ◇通信教育課程の検討	

学部	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
国際教育学部	①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。 ④将来の教育と心理分野の人材養成に合う国際教育学部大学院の将来構想を検討する。	・標準修業年限卒業率：95%以上 ・採用試験の合格率：浜松市・静岡県内大学平均値以上 ・小学校教諭養成：15～20 名 ・認定心理士：10 名 ・発達支援士（仮称：本学認定資格）：25 名 ・卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60 p 以上 ・就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：60 p 以上 ・父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：90%以上
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇入学定員の充足 卒業生の各園・各校での活躍を中心とした広報戦略を構築する。 ◇社会の要請に応え得る質と数の小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員・特別支援学校教諭・認定心理士（公認心理師）の人材育成と輩出とのための授業改善、さらなる豊かな体験や経験の機会の整備 ◇3つの系の履修モデルの明確化 ◇教員体制と教育環境の充実：地域を代表する先進的な教育と研究の場となることを目指す。 通信教育課程のカリキュラムやシステム等の準備・構築（申請） ◇教育変革 EX の動きに見合う教育課程や授業の改善・向上、公開講座や教育環境等の整備：隣人愛をベースとした IB×STEAM×SEL 教育研究と実践の推進 ◇クリストファーこども園・小学校との国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働体制の構築 ◇「国際バカロレア教員養成プログラム」の5年（2026 年度）経過後の審査の準備 ◇「国際バカロレア・現職教員養成プログラム」における募集方法の検討（英語・オンライン等） ◇小学校教員採用実績の維持・向上 ◇卒業生や近隣の教員・保育士の実践研究の支援（聖隷国際教育学会等の活動の充実） ◇通信教育課程の検討	

研究科	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
大学院共通	①保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。 ②研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉分野の新たな知の創造を目指す。 ③アジアを中心としたグローバルな保健医療福祉分野の研究・教育拠点を形成する。	・前期・後期大学院生の定員充足 ・学部卒業生からの進学者数：10%以上 ・各研究科留学生：1 名以上 ・国際コンファレンスの定例開催
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入試判定に向けた検討とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位 授与の方針）の到達度の確認方法の検討 ◇教育課程の編成・実施方針について、教育課程の実施に関する基本的な考え方の検討 ◇カリキュラムの検討（2025 年度申請・2026 年度施行） ◇SIRC2026 の運営を検討（シンガポール開催）	
看護学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇高度実践看護職育成のための NP（Nurse Practitioner（ナース・プラクティショナー））教育課程の運用 ◇専修免許取得コース教育課程の開設準備と設置 ◇資格取得コース（保健師、助産師）の検討 ◇研究活動を発展させるための研究計画審査過程、論文審査過程の検討 ◇学内循環型の人材育成の推進	
リハビリテーション科学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇国際共同研究・国際共同教育の実践 ◇院生募集強化策の立案と実践（文科省 BP 申請） ◇入学定員の充足に向けた活動の充実（臨床施設との連携強化、専門セミナーの開催、大学院生の研究費応募支援など） ◇高度実践リハビリテーションコースの運用 ◇論文投稿による学位審査（博士後期課程）の運用 ◇ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位 授与の方針）の到達度の確認方法の検討	
社会福祉学研究科	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇博士前期課程の定員充足目標値（充足率 50%以上）の安定維持。 ◇学部と連携して計画的な大学院教員の拡充。 ◇博士後期課程担当教員の拡充。 ◇院生の研究指導体制の充実。 ◇心理学分野心理領域の設置準備。	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
教育	①学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。 ②学位授与方針に適した保健医療福祉及び教育・保育の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。 ③国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生の英語教育と国際交流・活動を推進する。	・地域実践アクティブラーニングの実践活動と参加学生の推移（DP7のDPルーブリック達成度評価の平均、卒業時4.0以上） ・レポート評価・演習・実習科目におけるルーブリック活用：各学部目標数 ・学生の国際研修、国際支援アクティブラーニングの参加推移 ・ティーチング・ポートフォリオの専任教員全員実施
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇2027 年度に向けた教養共通科目の見直し ◇アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証の体制の構築 ◇データがたまる、つながる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計 ◇地域実践アクティブラーニング、国際支援アクティブラーニングの発展的展開 ◇国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の点検・評価と改善（2025 年度完成） ◇ティーチング・ポートフォリオの定着 ◇自律学修を促進するための、図書館利用機会の拡充 ◇生成 AI に関する適切な理解と利活用のための学生教育の実施	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
学生支援	①隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。 ②学修につまずきのある学生に対する全学的な支援体制を整備する。 ③健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。	・事件・事故の発生件数：前年度以下 ・満足度調査（他学部の学生と交流できた／サークル等を通じて他学部の学生との交流がある）の満足度指数を改善する。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇学生の支援体制（心身の健康・学修支援・経済支援・正課外活動・生活支援・障がいを持つなどの多様な学生の支援）の充実 ◇建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働 ◇学部を超えた学生交流の機会創出 ◇国際人育成のためのグローバルキャンパス	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
F D	①学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	・学生 FD スタッフが内部質保証に参画する体制を整える。 ・学生 FD スタッフが教育改善活動に参画する企画を実施する。 ・学部 FD 研修会、全学 FD/SD 修会：参加率 100% ・授業評価の実施：100% ・ピアレビューの実施：100%
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇学生 FD スタッフを全学的に組織化し、内部質保証および教育改善活動への参画体制を強化 ◇教職－学生共同による全学・学部 FD 活動の強化（FD サロンなどの充実・他大との学生 FD 交流など）に向けた学生 FD スタッフの参画を検討 ◇学生の動機付けモデルに基づいた授業評価による授業改善・向上の強化（学部/全学 FD 研修の充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など）	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
就職・キャリア支援	①在学生・卒業生の多様で豊かなキャリアを支援する。	・就職率 100%（就職希望者に占める割合） ・卒業生満足度調査項目「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：満足度指数 65 以上 ・病院施設への訪問：年間 20 か所以上 ・病院施設説明会参加数：各学部 20 施設以上 ・ホームカミングデーの参加者数：前年度比増
	②病院施設等と保健医療福祉及び教育・保育の最新動向や方針を共有し、長期スパンで相互に助け合い、高め合う協力体制を目指す。	
	③卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらう。	
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇病院施設等との懇談会、訪問、アンケート調査を通し、積極的に情報発信および情報収集を行い、それを学内へ還元する。 ◇同窓会報・学報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。 ◇社会人基礎力の評価を行うためのツール作成並びに運営を行う。	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
国際化	①グローバル化を発展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を発展させる。 ②留学生の受け入れのための基盤整備を充実させる。（経済支援、学内組織、教育体制、教員の英語力強化の取り組み）	・国際支援アクティブラーニングの事業と参加学生の定着：20%以上 ＊留学生との交流イベント年2回開催。 ＊県奨学金による学生海外留学を支援する（1名／年） ＊静岡県大学グローバル化推進プロジェクトとして、大学進学フェア、産学官連携による職場体験事業等を国内外で年1回実施する。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇グローバル化の発展に向けた教育環境の整備 ◇優秀な外国人留学生受け入れ	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
研究	①研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	・科研申請率：80% ・科研採択率：30% ・年間1教員1学会発表（公演等含）・1論文発表（書籍等含）
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇科研費等学外研究費獲得の推進 ◇産学連携事業・研究の推進のための学内基盤整備 ◇研究インテグリティの確保と利益相反マネジメントに関する体制・規程の整備	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
地域連携	①地域の保健医療福祉及び教育・保育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	・浜松市ウエルネス推進協議会参画団体との共同事業実施：3件／年 ・浜松市と大学との連携事業～大学生による講座：6講座／年 ・地域連携事業費の応募件数：10件／年 ＊県コンソーシアムが実施するゼミ・研究室等地域貢献推進事業による助成金を年間5件以上獲得する。また取組内容をフォーラムを実施により情報発信する。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇保健医療福祉及び教育・保育で浜松市との連携の継続 ◇地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築 ◇公開講座を開催し広く保健医療福祉及び教育・保育に関する最新の知識や情報の提供	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
学生募集	①アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 ②こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。 ③保健医療福祉及び教育・保育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。 ④高大接続改革、学習指導要領の改訂に対応した入試制度となっているか、毎年実施する追跡調査も参考に見直しを継続する。	・実質倍率（一般選抜前期受験者数：合格者数）：看護 1.5 以上、社会福祉、国際教育 1.1 以上 ・志願者実人数：理学 150 名、作業 110 名、言語 85 名 ・定員充足率：100%以上 ・河合塾入試難易度 看護 45.0 以上、社会福祉 40.0 以上、理学療法 47.5 以上、作業療法 42.5 以上、言語聴覚 40.0 以上、国際教育 40.0 以上 ・メディア掲載数：25 件/年間 ・併設高校進学者割合：看護 20%、リハビリ・社会福祉 15%、国際教育 12% ＊大学生による高校生対象ワークショップ（大学授業体験）、教員による高校への出張講義（高大連携出張講座）等の実施により、年間 650 名程度動員。 ＊県内出身の在学生 65%以上。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	定員確保 ◇各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行 ◇重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開 ◇学園内、卒業生循環型の募集体制の確立 ◇聖隷福祉事業団など就職先と連携した広報活動の拡充 入試改革 ◇総合型選抜、学校推薦型選抜の評価と見直し ◇入学者受け入れの方針（AP）に定める「求める学生像」を得るための選抜方法の点検と見直し	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
ICT	①社会の技術革新に適う人材育成に向けた、ICT 等の教育ツールの活用と教育・学生支援を充実する。	・全学 LAN の 10Gbps 対応、教育研究基盤保証型、高信頼性の確保およびクラウド移行
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇パソコン必携を前提とした双方向型の授業展開、成果物や思考過程の可視化を推進 ◇学術情報ネットワークを活用した、高速、大容量、他大学連携に対応した教育研究基盤整備 ◇5 年後、10 年後を見通した DX 推進計画の策定	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (1) 組織運営	①社会の情勢変化や保健医療福祉分野へのニーズに対応し、また大学ブランド力を発展させるため、学部・研究科の体制を有効・効果的かつ柔軟に編成・整備する。 ②大学の継続的发展のため、卒業生の中から本学の将来を担う優秀な人材を育成して、本学の歴史と教育理念を継承する。 ③教育研究並びに諸活動の質の向上を促すため、公正かつ適切な教員評価を実施する。 ④次世代を担う幹部教職員を育成し、活力あるイノベーティブな教職員組織を形成する。 ⑤業務の効率化・合理化とコスト管理を行い、資源の有効活用を促す。	・人件費比率 65%未満 ・教員一人あたりの学生配置数：13 人未満 ・教員年齢分布：40 未満 1/6、41～50 歳 2/6、51～60 歳 2/6、61 歳以上 1/6 ・卒業生・大学院修了生の教員配置：1/3 ・本学卒業生を教員として積極的に採用し、専任教員に占める本学卒業生の割合：50% ・幹部教職員の育成
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇教員配置計画に対する教員の充足 ◇教員配置、非常勤講師、準教員の適正配置 ◇卒業生の教員採用 ◇教職員の働き方改革 ◇組織運営・資源（人・金・物・時間）活用の見直し	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (2) 教育研究環境の整備	①快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。 ②教育研究環境の充実を図るため、各種補助金を獲得及び教育発展基金を開設する。	・教育改革推進経費（学長裁量経費）の見直し（教育研究経費の 5%以上） ・「私立大学等改革総合支援事業」（タイプ 3「プラットフォーム形成」）の採択 ・他大学との教養教育共同化及び単位互換 ＊県内の地域資源等に関するテーマで短期集中互換授業を実施し、年間 40 名程度動員。 ＊県西部地域の大学間連携による共同授業を実施し、本学教員授業で 20 名程度動員（年間）。 ・教育発展基金：開設 ＊プラットフォームふじのくに地域・大学コンソーシアムにおける活動計画【大学事務の共同実施、経済 4 団体との連携、リカレント教育、BCP 策定、e-ラーニングシステム策定】の検討会議を年間 5 回開催。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇教育発展基金の開設（制度・受け入れ窓口の開設） ◇ICT 環境の高度化、情報システムの統合・集約（認証方法の統一、情報の一元化） ◇校舎・教室等の保全と改修・修繕	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (3) 内部質保証及び情報公開	①内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。 ②教学に関する IR 情報の分析を通して、学生募集、入学試験、教育課程、卒業生等における教学改革方針の策定及び施策等に関する意思決定をサポートする。	・ IR 有効活用等による教学マネジメントの体制構築と適切な運用（PDCA サイクル） ・ 認証評価受審適合判定（2023）
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇2023 年度認証評価受審後の改善事項への対応と内部質保証の向上 ◇改善報告書の作成・提出（2027 年 7 月までに大学基準協会へ） ◇教学 IR 委員会と自己点検・評価運営委員会との連携による教学改善 ◇第 4 期認証評価を見据えた内部質保証システムの再構築	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (4) 安全管理	①安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	・ コンプライアンス案件：0 ・ ハラスメント案件：0 ・ 教職員のストレスマネジメント：偏差値 50 ・ 「本学がハラスメントの報告や相談を安心してできる職場であるか」という主旨の質問項目を設け、実情を把握する。
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇リスクマネジメントの強化 ◇ハラスメントのない大学環境を創出する。 ◇BCP（Business Continuity Plan、緊急事態時の被害を最小限に抑え、事業が継続できるように対策や方法をまとめた計画）対策、データバックアップ、障害早期復旧体制の強化	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (5) その他	①学園の将来構想（グローバルスクール：国際教育学部、メディカルスクールの設置）に向けた大学改革を実行する。	・ 大学の将来構想の設計
	中期・短期計画（2024～2026 年度）	
	◇教育・心理学研究科の設置（2029 年 4 月）の準備 ◇大学の中長期事業計画の見直し（2026 年度内に） ◇通信教育課程の開設（2027 年 4 月）の準備 ◇「心理・発達ユニバーサルデザインセンター（仮）」の準備	

聖隷クリストファー大学 2024 年度事業計画 評価

◎：目標を達成した ○：おおむね目標を達成した △：行動計画は実施したが目標を達成できなかった
▲：行動計画が未実施で目標を達成できなかった

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
看護学部	学部・専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	新カリキュラムの着実な推進と評価	1-① 新カリキュラム推進のために講義・演習・実習を一連として実施する教育に適した評価方法を計画し、一部実施する。	○
		看護教育充実のための教育環境の整備と充実	1-② 講義における学習環境の充実、および新たな教育方法の展開を推進する環境整備を行う。	○
		地域住民の健康推進への貢献と、看護教育の連携による新たな教育展開	1-③ 地域住民のニーズの探索方法を検討し、一部実施する。	○
	社会の看護師（職）養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部大学院（CNS・NPを含む）、特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。	大学院における新たな展開を学部教育に反映し、学生のキャリア形成につながる、広がりを持った学部-大学院教育の充実	2-① 学生が自らの将来のキャリアを見据えて効果的に学ぶことができる、学部における新たな選択コースの創出を包含するコース構造を検討する。	○
			2-② 学部-大学院教育を支える教員の教育力・研究力の強化および育成を行う。	○
助産学専攻科	専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた教育課程の実践と評価体制を構築する。	1-① 「助産診断・技術学」の分娩介助技術演習に OSCE 導入の課題を明確し、評価基準を作成する。	○
			1-② 助産師教育課程を専攻科 1 年教育から大学院教育の改組に向けて、大学院開設に向けてスケジュールを作成する。	△
社会福祉学部	社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師を養成し輩出する。	介護福祉士の人材育成と輩出	1-① 介護福祉士コースへの関心拡大に向けた学生募集への取り組みを行い、入学時希望者を 15 名獲得する。	◎
		福祉心理コースの円滑な運営	1-② 介護福祉士取得後に有用な教育内容の充実を図る。	◎
			1-③ 公認心理師養成課程 2 年次の安定的な運営及び、完成年度に向けての準備を整える。	◎
		海外ソーシャルワーク研修の新設	1-④ 2025 年度以降の研修実施に向けた実施計画を策定しながら準備を進める。	△
		教育課程の評価・見直し	1-⑤ 2026 年度カリキュラム改定に向けた準備を行う。	◎
こども社会福祉学部 社会福祉学部	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	教員体制と教育環境の充実	2-① 「子育て広場たっくん」と「心理学実験室（仮称）」の整備と新たな運営体制を構築する。（4～3 月）	◎
			2-② 学生主体の交流・活動企画やその運営を探究型プロジェクトとして位置づけ、学科教員との共同体制を整える。（4～11 月）	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
リハビリテーション学部	国際リハビリテーションコース（2024年度終了）および国際保健医療福祉プログラム（2022年度開始）の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。	国際リハビリテーションコース（2024年度修了）および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開（大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供）	1-① ○国際保健医療福祉プログラム履修者：6名 ○国際的活動に関連する進路選択：1名 進路）国際支援に関連する団体施設等への就職、大学院、留学など	◎
			1-② 国際リハビリテーションコース修了者の大学院への進学：1名	◎
	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	企業との連携体制の強化による新たな教育方法の導入と教育成果の検討	2-① 企業（杏林堂薬局・Lenovo）との連携体制を強化し、学内外におけるリハビリテーション学部の認知度を上げる。	○
			2-② 産学連携により、新しい教育システムを開発し、実践的な学びの成果について検証する。	○
	地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。	「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」の開設に向けての体制整備 ※2024年度リハビリテーション学部20周年記念事業として位置づける。	3-① 初年次教育から4年次まで、教育特徴を活かした新カリキュラム（2025年度入学生より開始）を作成する。	○
			3-② 「学校教育・保育分野（特別支援教育など）・ヘルスプロモーション分野」で活躍できるリハビリテーション専門職の養成を目的とした「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」の開設（仮称）」の開設に向けての体制整備	◎
			3-③ リハビリテーション学部20周年記念講演会を、2025年度に実施できるように体制を整える。	○
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	3 学科の特色を活かした学生募集戦略の実施、定員充足のための着実な広報活動	4-① 入学定員の確保：充足率100%（入学者目標数：理学療法44、作業療法33、言語聴覚28） 4-② オープンキャンパスの参加者を増やす。（参加者目標数：理学療法250、作業療法110、言語聴覚90） 4-③ 学部・学科の特長をアピールし、他大学との差別化を図る。	○ ○ ◎
国際教育学部	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	教育変革EXの動きに見合う教育課程や授業の改善・向上、公開講座や教育環境等の整備	1-① 3つの系（教育・保育・心理）の特長や国際教育学部の将来像）を学科教員間で明確化し、具体的に教育内容をデザインする。	○
	社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。	入学定員の充足 卒業生の各園・各校での活躍を中心とした広報戦略を構築する。	1-② 保幼小・特支といった資格・免許に加えて、発達支援士（仮称）・IBEC・公認心理師などへの認知度を上げる取り組みを強化する。	○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
大学院共通	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入試判定に向けた検討とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の到達度の確認方法の検討	1-① アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入試判定方法を検討し、評価指針と評価表を作成する。	◎
		教育課程の編成・実施方針について、教育課程の実施に関する基本的な考え方の検討	1-② 全研究科で博士前期課程・博士後期課程の教育方法の考え方を明文化し公表する。	◎
		アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づく入試判定に向けた検討とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の到達度の確認方法の検討	1-③ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の到達度の確認方法を策定する。	◎
		カリキュラムの検討（2025年度申請・2026年度施行）	1-④ 新カリキュラム案を立案する。	○
看護学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	専修免許取得コース教育課程の開設準備	1-① 資格取得コース専修免許取得課程について広報活動を展開し、出願者を確保する。	◎
		資格取得コース（保健師、助産師）の設置について検討を行う	1-② 博士前期課程における資格取得コース（保健師、助産師）の設置について検討を行う。	○
		高度実践看護職育成のためのNP（Nurse Practitioner／ナース・プラクティショナー）教育課程の運用	1-③ NP（Nurse Practitioner）教育課程の適切に運用し、広報活動を展開する。	◎
		保健医療福祉分野のイノベーションをリードするための高度な専門職者、教育者の輩出	1-④ 新たに3課程を職業実践力育成プログラム（BP）に申請し認可を受け広報活動を展開する。	○
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉分野の新たな知の創造を目指す。	地域の専門職者及び学問分野に寄与する研究活動発展のための研究プロジェクトの構築	2-① 研究科構成員はじめ、学部教員の研究力を発展させる。	▲
		学内循環型の人材育成の推進	2-② 卒業生、学部生への広報活動を展開し定員充足を図る。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
リハビリテーション科学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	高度実践リハビリテーションコースの運用	1-① 高度実践リハビリテーションコースへの出願者1名以上。	◎
			1-② 高度実践リハビリテーションコースに関連した講演会又はセミナーを開催する。	◎
		論文投稿による学位審査（博士後期課程）の運用	2-① 論文投稿による学位審査を実施する旨オリエンテーション・ガイダンスで周知し、HPに掲載する。	◎
			2-② 博士後期期課程の学位審査プロセス通りに運用する。	◎
		国際共同研究・国際共同教育の実践	3-① 基盤科目・専門科目について50%英語で教授できる科目を選定し、講義資料を英語にて教授する。	○
		ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の到達度の確認方法の検討	4-① 教育学コース課題研究論文の評価表を作成する。	◎
4-② 高度実践リハビリテーションコース課題研究論文の評価表を作成する。	◎			
社会福祉学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技術を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	大学院のPRに努め、博士前期課程の定員充足率50%以上を安定的に維持できている状況を目指す。	1-① 浜松市の福祉保健活動の推進に貢献する。同時に、大学院の定員充足を視野に入れ、地域の社会福祉関係者向けの講座やシンポジウム、研修等の機会を活用する。さらに、入試広報センター、キャリア支援センターと連携して大学院のPRを進めていく。	○
			1-② 公認心理師コースの設置準備を進める。	◎
			1-③ 複数教員体制での円滑な研究指導を実施する。また、将来を見据えた研究科運営体制を整える。	○
教務	学位授与方針に適した保健医療福祉及び教育・保育の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。	アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証の体制の構築	1-① アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化の一環として、各種取り組みの評価を行う。	○
			1-② 2027 年度の教養共通科目の見直しに向けた考え方とスケジュールを示す。	△
	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICT の活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	地域実践アクティブラーニングの発展的展開 データがたまる、つながる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計	2-① 地域実践アクティブラーニングの学修成果を点検する。	○
			2-② 秋セメスターに電子教科書を導入する。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
国際保健医療福祉 プログラム	国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生の英語教育と国際交流・活動を推進する。	国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の点検・評価と改善（2025 年度完成）	1-① 国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の各学部・学科定員を満たす。	◎
			1-② グローバルに活躍できる基礎的な力が、個々のプログラムで、身についているか点検・評価する。	◎
	隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。	国際人育成のためのグローバルキャンパス	2-① インスタグラムのフォロワーを300人にする。（現在110人）	△
学生支援	健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。	学生の支援体制（心身の健康・学修支援・経済支援・正課外活動・生活支援）の充実	1-① 学生の事件の発生率は0件を、交通事故の発生率は前年度比10%減を目標とする。	◎
			1-② 学生の各活動の支援を行う。	◎
			1-③ 学生のボランティア参加件数を2023年度から5%上げる。	○
		学部を超えた学生交流の機会創出	1-③ 学生の課外活動の支援方針及び計画を作成する。	◎
		建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働	2-① クリスマス関連行事の参加者数を増やす。	◎
		学部を超えた学生交流の機会創出 国際人育成のためのグローバルキャンパス	3-① 学生の活動（学友会・聖灯祭等）の支援体制の見直しを行い、学生が安全に円滑に活動できるよう支援を行う。 3-② 新規イベントを企画・実施する。	◎ △
FD	学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	学生の動機付けモデルに基づいた授業評価による授業改善・向上の強化（学部/全学FD研修の充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など）	1-① 全学 FD 研修を年に二回実施する。教員の FD 研修参加 100%。	◎
			1-② 授業評価の実施率 100%、回答率 70%。	◎
		教職－学生共同による全学・学部FD活動の強化（FDサロンなどの充実・他大との学生FD交流など）に向けた学生FDスタッフの参画を検討	1-③ 授業評価やピアレビュー等による授業改善・向上の効果の検証のための焦点、方法に関する方向性が明確になる。	○
			2-① 各学部 2 回以上 FD サロンを開催する。	◎
		学生FDスタッフを全学的に組織化し、内部質保証および教育改善活動への参画体制を強化	2-② 各地で開催される FD フォーラム等に学生を 1 回以上派遣し、得られた知見を学生 FD スタッフおよび、教員と共有できる。	△
			3-① 学生 FD スタッフの意識を高め、全学的な教育改善活動への参画を促す体制を強化する。各学部の学生 FD スタッフ 25～30 名程度。 3-② 年度末に全学 FD スタッフ会議を開催し、定量的・定性的評価を共有し、教育改善に関して学生と教員の意見交換を行う。	○ ○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価																														
就職・キャリア支援	在学生・卒業生の多様で豊かなキャリアを支援する。	社会人基礎力の評価を行うためのツール作成並びに運営を行う。	1-① 卒業生満足度調査項目「希望する進路先に就職、または進学することができた」満足度指数 60 以上を維持しながら、卒業後を見据え、社会人基礎力等を高める。	◎																														
	病院施設等と保健医療福祉及び教育・保育の最新動向や方針を共有し、長期スパンで相互に助け合い、高め合う協力体制を目指す。	病院施設等との懇談会、訪問、アンケート調査を通し、積極的に情報発信および情報収集を行い、それを学内へ還元する。	2-① 卒業生および病院・施設等就職先に対し大学院の周知を行い、より充実したキャリアを描けるよう支援する。	◎																														
	卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらう。	同窓会報・学報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。	3-① 卒業生同士の交流、また母校への帰属意識醸成のため、ホームカミングデーへの参加や同窓会の事業活用を促す。	◎																														
グローバル教育推進	グローバル化を進展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を進展させる。	グローバル化の発展に向けた教育環境の整備	1-① 全ての海外の交流協定校とのプログラムをコロナ禍前に戻す。	◎																														
	留学生の受け入れのための基盤整備を充実させる。(経済支援、学内組織、教育体制、教員の英語力強化の取り組み)	優秀な外国人留学生受け入れ	1-② 留学生受入れ体制を整え直す。	◎																														
	隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。	国際人育成のためのグローバルキャンパス	2-① ウェブサイト「国際教育・国際交流」、国際交流ブログを計画的に更新する。	◎																														
研究推進・研究倫理	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	科研費等学外研究費獲得の推進	1-① 研究活動の推進：共同研究費及び科研費等の外部資金の申請・獲得件数が前年度以上。 共同研目標：申請 20 件、採択 14 件 科研費目標：申請 40 件、採択 9 件 申請件数の実績（2025. 3. 4 現在） 共同研究 F を除く。科研費学外者含む。 <table><tr><td>年度</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr><tr><td>共同研</td><td>26</td><td>16</td><td>14</td><td>20</td></tr><tr><td>科研</td><td>41</td><td>39</td><td>32</td><td>40</td></tr></table> 採択件数の実績（2025. 3. 4 現在） 共同研究 F を除く。科研費学外者含む。 <table><tr><td>年度</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr><tr><td>共同研</td><td>23</td><td>16</td><td>14</td><td>20</td></tr><tr><td>科研</td><td>11</td><td>12</td><td>9</td><td>9</td></tr></table>	年度	2021	2022	2023	2024	共同研	26	16	14	20	科研	41	39	32	40	年度	2021	2022	2023	2024	共同研	23	16	14	20	科研	11	12	9	9	◎
	年度	2021	2022	2023	2024																													
共同研	26	16	14	20																														
科研	41	39	32	40																														
年度	2021	2022	2023	2024																														
共同研	23	16	14	20																														
科研	11	12	9	9																														
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備	2-① 共同研究費の在り方を再考し、共同研究費を 100%配分できる仕組みを考案する（残額が生じないようにする）。	○																														

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
研究推進・研究倫理	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	研究インテグリティの確保と利益相反マネジメントに関する体制・規程の整備	3-① 関連規程、様式等を制改定する（2025年3月までに）	◎
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉及び教育・保育の学術の発展に寄与する。	産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備	4-① 研究倫理に関する研修会を1回/年開催し、出席率100%とする。（2024年9月）	◎
			4-② 倫理申請書の電子申請に運用法を検討し、試行する。（2025年2月）	△
地域連携	地域の保健医療福祉及び教育・保育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	保健医療福祉及び教育・保育で浜松市との連携の継続	1-① 「浜松市との連携事業～大学生による講座」を年間6講座実施する。	◎
		地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築	1-② 2025年度地域連携事業費にて、3件以上「学生が参画する事業」の応募がある。	◎
			1-③ 地域連携推進センター推進事業における本学教員や学生の地域での活躍を積極的に大学ホームページで取り上げる。（HPへの掲載10件）	◎
		公開講座を開催し広く保健医療福祉及び教育・保育に関する最新の知識や情報の提供	1-④ 地域連携センター主催の公開講座を年間7講座実施し、のべ490名の参加者を得る。	○
入試・広報	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行	1-① 入学者の確保 看護156名、理学療法44名、作業療法33名、言語聴覚28名、社会福祉60名、国際教育50名 助産学専攻科17名	△
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開	1-② 中学生・高校1,2年生を対象として、専門職に対する関心をもってもらう行事を増やす。	○
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開	2-① 訪問する高校を4段階に再分類し、最重点校は年4回、重点校は3回訪問する。県内、東三河地域以外への訪問も継続する。	○
		学園内、卒業生循環型の募集体制の確立	2-② クリストファー高校からの入学者を増やす。 看護28名、理学療法7名、作業療法5名、言語聴覚4名、社会福祉7名、国際教育7名	△
	高大接続改革、学習指導要領の改訂に対応した入試制度となっているか、毎年実施する追跡調査も参考に見直しを継続する。	総合型選抜、学校推薦型選抜の評価と見直し	3-① 2025年度以降の入試について検討し、変更点を公表する。	○
		入学受け入れの方針(AP)に定める「求める学生像」を得るための選抜方法の点検と見直し	3-② 入試の選抜方法がAPに基づいたものとなっているか点検し、面接評価項目等を見直す。	○
		（看護学部）アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	4-① 入学者の確保(156名) 偏差値45.0以上	○
		各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行	4-② オープンキャンパスの参加者を増やす。(参加者目標数:780名)	○
			4-③ 併設校との関係を強める。	○
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開		○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
入試・広報	(社会福祉学部) アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行	5-① 入学者の確保(60名) 偏差値 40.0 以上 (推薦 45~50 名、一般 10~15 名)	△
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開	5-② オープンキャンパスの参加者を増やす。 (参加者目標数：220 名)	△
	(リハビリテーション学部) アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行	6-① 入学者の確保 (理学療法 44 名、作業療法 33 名、言語聴覚 28 名) 偏差値 (理学療法 47.5 以上、 作業療法 42.5 以上、 言語聴覚 40.0 以上)	△
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開	6-② オープンキャンパスの参加者を増やす。 (参加者目標数：理学療法 300、 作業療法 150、言語聴覚 100)	○
			6-③ 学部・学科の特長をアピールし、他大学との差別化を図る。	◎
			6-④ 入試制度(指定校選抜・総合型選抜)の見直しと評価を行う。	◎
	(国際教育学部) アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。	各学部・学科の特長を明確にした募集広報戦略の立案と実行	7-① 入学者の確保(50 名) 偏差値 42.5 以上	△
		重点校や指定校との関係強化、各校のニーズに合った募集広報活動の展開	7-② オープンキャンパスの参加者を増やす。 (参加者目標数：200 名)	△
図書館	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	自律学修を促進するための、図書館利用機会の拡充	1-① 図書館学生スタッフが関わる活動機会を増やす。	◎
	留学生の受け入れのための基盤整備を充実させる。(経済支援、学内組織、教育体制、教員の英語力強化の取り組み)	グローバル化の発展に向けた教育環境の整備	2-① 図書館の教育環境を整備する。	◎
ICT	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	データがたまる、つながる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計	1-① 学生自身の学びの振り返りにつながる、学修および課外活動のデータ蓄積(WebClass を軸とした電子化対象)を増やす。	○
	社会の技術革新に適う人材育成に向けた、ICT等の教育ツールの活用と教育・学生支援を充実する。	パソコン必携を前提とした双方向型の授業展開、成果物や思考過程の可視化を推進	2-① 教員と学生が必携パソコンを有効活用できるようにする。	○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
I C T	快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。	ICT環境の高度化、情報システムの統合・集約（認証方法の統一、情報の一元化）	3-① 高度なICT活用イメージ（実証結果、簡易フロー等）を学内に公開する。	○
基 盤 整 備	内部質保証及び情報公開 ①内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。	2023年度認証評価受審後の改善事項への対応と内部質保証の向上	1-① 2023年度認証評価受審に伴う是正勧告、改善課題への対応を図る。 1-② 内部質保証システムを再構築する。 1-③ 第4期（2030年度）認証評価受審に向けての中長期計画を立案する。	○ △ ○
	学位授与方針に適した保健医療福祉及び教育・保育の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。	アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証の体制の構築	2-① 2025年度からの運用に向けて、改定DPルーブリック（2025年度版）を策定する。	◎
	内部質保証及び情報公開 ②教学に関するIR情報の分析を通して、学生募集、入学試験、教育課程、卒業生等における教学改革方針の策定及び施策等に関する意思決定をサポートする。	教学IR委員会と自己点検・評価運営委員会との連携による教学改善	1-① APに相応しい学生確保ができているか？各種データを分析し、教学改善に向けた提言を行う。	◎
	安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	ハラスメントのない大学環境を創出する。	1-① ハラスメント防止のための対策、取り組み等改善に関するアンケートの下記設問に対する回答「はい」の割合が前年度よりも低くなる。 ・設問V-1「この1年以内に、本学の学生がハラスメントを受けているのを目にしたり、学生に対するハラスメントについての報告・相談（本人以外からも含む）を受けたりしたことがありますか。」 ・設問VI-1「この1年以内に本学であなたがハラスメントを受けたと感じたことがありますか。」	△
	安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	リスクマネジメントの強化	1-① 災害対策関連規程等を制改定する。	△
	教育研究環境の整備 ②教育研究環境の充実を図るため、各種補助金を獲得及び教育発展基金を開設する。	教育発展基金の開設（制度・受け入れ窓口の開設）	2-① 基金の制度を設計する。	◎

聖隷学園は創立以来、キリスト教精神に基づく「隣人愛」を建学の精神としています。本校はこの建学の精神を継承し、介護福祉の知識・技術・価値・理念と、隣人愛の精神が統合された人間教育を行い、自分のことのように他者を考え「愛の実践」ができる介護福祉士を養成します。

そのために専門学校の特徴である「礼拝」や「はじめの会」「おわりの会」を教員と学生が共に大切なものと意識し、教員はそれらを学生がスムーズに運営できるように支援します。このことを通して自分で考え行動でき、礼節を知る学生を涵養していきます。学生ひとりひとりを大切に、教育目標に沿って質の高い教育実践を追及します。

【教育目標】

1. 人間理解にもとづき、他者と全人格的な人間関係を深めることができる隣人愛に根差した態度が身につく。
2. 介護対象者の全体像をとらえ、介護の領域に必要な基礎的な知識を身につけ、科学的かつ生活に寄り添った個別ケアを展開することができる。
3. 自己を理解し、だれとでも人間関係を創造できる豊かなコミュニケーション力が身につく。
4. 常に地域や福祉に関心を持ち、介護福祉実践にかかわる問題として考えていくことができる。
5. 保健医療福祉チームの一員として、介護専門職者の役割を認識し、協働してその責務を果たすことができる。

2025 年度は 4 名の外国人留学生が国家試験を受けることとなります。多様な母語、パート合格など国試の形態も変化しますが、情報収集をしっかりと行い、全員が国家試験に合格できるように国家試験対策を今まで以上に強化します。また過去最大の外国人留学生の受け入れになることから、多くの外国人留学生が安心して学べる環境の構築にも努めます。

学生募集活動の見直しを丁寧に行い、2026 年度入学者 35 名以上を目標にします。

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 2024 年度事業計画 評価

1 入学者を確保するための学生募集活動（2025年度入学者目標数25名）

2024 年度入学者は 12 名と過去最も少ない入学者数に留まりました。日本人学生を中心とした募集活動では、今後入学者を確保していくことは難しいと考え、外国人留学生の割合を増やすことで入学者目標数の達成を目指します。2030 年度までの出来るだけ早い時期に日本人学生 20 名、外国人留学生 20 名の入学者が得られるよう、それぞれの募集広報施策を見直します。

① 本校の特長と介護の魅力・やりがい・専門学校で資格を取得して就職することのメリットを高校生・保護者・高校教員にわかりやすく情報発信する。

本校の特長に加え、介護の魅力・やりがい等を高校生、保護者にパンフレットやホームページ、SNSにより丁寧に伝えます。また、前年度から実施をしている介護体験教室、ボランティア体験企画を継続・充実させ、早期に介護、福祉に関わる仕事について知ってもらえる機会とします。

高校訪問は実績のある高校を中心に、近隣の進路多様校への訪問を増やします。高校卒業後そのまま福祉施設への就職をするケースも増えていることから、専門学校で資格を取得してから就職することのメリットを伝えます。

評価：○：概ね目標通りできた

10 月に介護体験教室、夏季と 12 月にボランティア体験企画を実施、多くの参加者を得ることができた。

② オープンキャンパスの参加者を増やし、確実に出願・入学に繋げる。

学校ホームページ、受験生情報サイトの充実、効果的なダイレクトメールの送付により、オープンキャンパス等の募集行事への参加者増を図ります。個別に相談をしたい保護者や外国人留学生を主なターゲットにイブニング相談会を週 2 回のオンライン・来校（一部）で受け付け、その後のオープンキャンパス等への参加に繋がります。

評価：○：概ね目標通りできた

オープンキャンパスの参加者は今年度のべ 60 名（+25%）に増やすことができた。更にプログラムの中で志望度を高め、そのまま出願に結びつけることができたと考えている。2024 年度の日本人の入学者は 8 名に留まったが、2025 年度は 18 名が入学した。

③ 卒業生の活躍をホームページや募集行事、高校訪問時において紹介する。

地域で活躍している卒業生の情報を増やします。ホームページ、SNS で動画も使いながら紹介するほか、オープンキャンパスでの卒業生講話、施設からのオンライン中継などを取り入れ、介護の魅力・やりがいを伝えていきます。動画等のコンテンツは重点校への訪問時にも活用します。

評価：○：概ね目標通りできた

パンフレット、ホームページなどで卒業生の情報を更新、拡充した。オープンキャンパスにおいては、教員と学生スタッフが中心となったが、介護の魅力・やりがいに加え、講義・演習・学生生活の紹介なども加え、専門学校での学びをより具現化できる内容に見直して実施した。

④ 外国人留学生を増やすため、奨学金支援法人、日本語学校との連携を強化する。

これまでの外国人留学生の募集は、既に来日し日本語学校で学んでいる外国人を主な対象としていましたが、今後は聖隷福祉事業団と取り組んでいる、留学生の母国（現地）から留学生・奨学生を採用するモデルを拡大していきます。このため、日本語学校、奨学金支援法人との新たな連携を提案し、一連のモデルを構築します。

一方で近隣の日本語学校への訪問も継続し、施設見学やオープンキャンパスへの参加を促します。卒業生、在学生在が母国語で作成したメッセージや学校紹介動画などを制作します。

評価：◎：目標通りできた

留学生の母国からの採用について、①豊橋の中部ランゲージアカデミー、七恵会との連携によりインドネシア人1名が10月に来日（2026年度入学予定）、②関西の専門学校、社会福祉法人慶成会との連携により、ミャンマーから現地でN2を取得している留学生を直接本校に受け入れる。最終的に、外国人留学生は15名が入学した。

2 知識や技術の深い理解とともに、人間力と実践力を涵養する教育の徹底

（1）満足度の高い授業展開を図ります。

- ① 学生が苦手意識のある科目については授業内容等を見直し、授業の内容及び方法の改善を図ります。
- ② 主体的学修（アクティブラーニング）を促す授業展開を推進します。

評価：◎：目標通りできた

教員相互の情報交換の場を設けることや、気になる学生などの個別対応にも着手した。

（2）学力評価試験や模擬試験を有効的に用い、介護福祉士国家試験に全員が合格するように教育・試験対策を強化します。

- ① 特別な支援を必要とする学生に対して、グループ学習や個別学習を実施します。
- ② 外国人留学生に対して、グループ学習や個別学習を強化します。
- ③ 国家試験対策委員会を中心に、学生がお互いに助け合いながら国家試験の勉強に取り組めるように支援を行います。

評価：○：概ね目標通りできた

学部と協力して国家試験対策の充実を図った。一方、学習習慣がない一部の外国人留学生や、グループ学習を好まない外国人留学生へのフォローは不完全であった。

3 学生支援の充実

（1）就職・キャリア支援

① 奨学金支援法人との協力

奨学金支援法人に対し、採用担当者や就職した卒業生から、当該法人の運営や介護福祉士の役割・働きなどの説明など、継続して就職支援行事等への協力を依頼します。また、外国人留学生に関する情報共有を行い、スムーズな受入に繋がります。

評価：◎：目標通りできた

関係部署との連携を行い迅速かつ的確な対応ができた。

② 編入学

福祉分野でより高い専門性と知識を実践するために大学へ編入することについて、具体的なイメージがもてるよう卒業生からの説明機会を継続して設けます。また、学園内推薦編入学制度について十分に説明を行うことで積極的に制度の利用を促し、学生が学修を学園内で継続できるよう支援していきます。

評価：○：概ね目標通りできた

編入学希望の学生の入試対応を行うことで無事合格に繋がった。経済的な制約が進学の障壁になったことがあったため、今まで以上に学生個々の経済面での相談体制の在り方など検討課題となった。

③ 卒業生支援

卒業生同士の情報交換のほか在学生との交流等を継続できるよう、ホームカミングデーや教員が行っている勉強会等の案内についてホームページを中心に発信し続けます。

計画的に情報更新をすることで、卒業生の接触機会の維持につなげます。

評価：◎：目標通りできた

関係部署との連携を行い、内容の充実を図ることができた。外国籍の卒業生の就職先訪問なども就職先から好評を得たので継続していきたい。

(2) 学生生活

建学の精神「生命の尊厳と隣人愛」を具現化した、学生支援を深め、だれもがその人らしい学生生活が送れるように支援します。

- ① 日本人学生と外国人留学生が共に学びあい、育ちあうように、教育や学生支援を行います。また行事や交流を通して、学生生活における楽しみや、介護現場への展開に転換できるような企画を強化し学生生活の充実を図ります。
- ② 人間力や組織運営力の涵養を図るために行われる、専門学校独自ボランティア活動を推進します。
- ③ 事件、交通事故が発生しないように、各セメスターのガイダンス、長期休業前、関係機関からの通達時等で学生に注意喚起を行います。また、SNSでトラブルを引き起こさないよう利用上のルールやマナーを伝えていきます。

評価：◎：目標通りできた

関係部署との連携を行い、内容の充実を図ることができた。特に学生相談室のカウンセラーと密に連携を取ることができた点が良かった。

4 外国人留学生の受け入れ後の対応

外国人留学生の入国管理、公的機関に関する手続き、資格外労働の管理、生活全般にわたるサポートを行います。外国人留学生が安心して生活し、学業に専念できる環境を作り、自立して日本での生活ができるよう、支援します。留学生の生活ガイドブックの更新をしていきます。

評価：◎：目標通りできた

関係部署との連携を行い、内容の充実を図ることができた。特に新規ルートの受け入れだけでなく、日本語支援をグローバル教育推進センターの協力を得ることができた点が非常に良かった。

◆ 学生募集の推移

		入学 定員	2025 年度入学		2024 年度入学		2023 年度入学	
			志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
大学院	看護学研究科	15	20	18	15	14	12	10
	博士前期課程	10	12	12	10	9	8	7
	博士後期課程	5	8	6	5	5	4	3
	社会福祉学研究科	13	4	3	1	1	3	3
	博士前期課程	10	4	3	0	0	2	2
	博士後期課程	3	0	0	1	1	1	1
	リハビリテーション科学研究科	20	17	17	13	13	9	9
	博士前期課程	15	15	15	10	10	7	7
	博士後期課程	5	2	2	3	3	2	2
	大学院合計	48	41	38	29	28	24	22
大学	看護学部	150	468	164	528	165	685	158
	看護学科	150	468	164	528	165	685	158
	助産学専攻科	15	53	17	33	17	34	17
	社会福祉学部	65	82	36	114	57	118	56
	社会福祉学科	60	80	35	111	55	114	52
	編入学	5	2	1	3	2	4	4
	リハビリテーション学部	95	360	106	374	106	335	89
	理学療法学科	40	190	49	177	43	183	49
	作業療法学科	30	100	30	121	41	94	23
	言語聴覚学科	25	70	27	76	22	58	17
	国際教育学部	50	96	35	105	43	133	52
	こども教育学科	50	96	35	105	43	133	52
	大学合計	375	1,059	358	1,154	388	1,305	372
総 合 計		423	1,100	396	1,183	416	1,329	394

	入学 定員	2025 年度入学		2024 年度入学		2023 年度入学	
		志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
介護福祉専門学校	40	34	33	12	12	23	23

◆ 国家試験合格率の推移

看護師・保健師・助産師国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	所属	2024 年度		2023 年度		2022 年度	
		全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
看護師	大学	97.7%	98.1%	95.6%	94.8%	97.1%	100.0%
保健師	大学	97.1%	95.9%	98.5%	100.0%	97.5%	100.0%
助産師	専攻科	99.4%	100.0%	99.4%	94.1%	97.5%	100.0%

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2024 年度		2023 年度		2022 年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
社会福祉士	75.2%	82.6%	76.8%	78.0%	65.0%	75.9%
精神保健福祉士	85.3%	100.0%	82.5%	91.7%	78.8%	94.7%

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2024 年度		2023 年度		2022 年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
理学療法士	97.0%	100.0%	96.8%	98.0%	96.8%	100.0%
作業療法士	93.9%	96.3%	93.2%	92.9%	93.2%	91.9%
言語聴覚士	89.6%	88.5%	86.8%	72.0%	86.7%	80.0%

介護福祉士国家試験の合格率（養成施設新卒者）

資格名	2024 年度			2023 年度			2022 年度		
	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門学校
介護福祉士	66.7%	100.0%	100.0%	71.5%	100.0%	100.0%	75.6%	100.0%	100.0%

◆ 卒業生・修了生の進路状況（大学）

2024 年度 卒業生・修了生の進路状況

看護学部卒業生の内訳

（単位：人）

卒業生数	155	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数（*1）	140	看護師	125	87	38
		保健師	12	10	2
		養護教諭	3	3	0
進学者数（*2）	10				
その他（*3）	6				

（*1） 聖隷三方原病院…22 名、聖隷浜松病院…34 名、浜松市リハビリテーション病院…4 名、
聖隷富士病院…1 名、聖隷横浜病院…9 名、聖隷保健事業部…1 名、
合計 71 名（就職者の 50.7%）

（*2） 進学者のうち、1 名は就職もしています。

（*3） 「その他」は就職活動中の者 1 名と就職しない者 5 名です。

助産学専攻科修了生の内訳

修了生数	17	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	17	助産師	17	14	3
		看護師	0		

(*1) 聖隷三方原病院…1 名、聖隷浜松病院…9 名、合計 10 名（就職者の 58.8%）

社会福祉学部社会福祉学科（ソーシャルワークコース、介護福祉コース）卒業生の内訳

卒業生数	49 (SW35/介 14)	内訳		静岡県内	静岡県外
			SW/介	SW/介	SW/介
就職者数 (*1)	48 (SW34/介 14)	福祉施設	25/11	23/7	2/ 4
		医療機関	5/ 0	5/ 0	0/ 0
		公務員	2/ 1	2/ 1	0/ 0
		その他	2/ 2	2/ 0	0/ 2
その他 (*2)	1 (SW1)				

(*1) 聖隷福祉事業団…10 名（就職者の 20.8%）

(*2) 「その他」は就職活動中の者 1 名です。

社会福祉学部こども教育福祉学科卒業生の内訳

卒業生数	29	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	29	公立小学校	8	7	1
		私立小学校	0	0	0
		特別支援学校	4	3	1
		公立幼稚園・保育園	0	0	0
		私立幼稚園	1	1	0
		こども園	7	7	0
		民間保育園	5	5	0
		社会福祉施設	2	1	1
		一般企業	2	2	0

(*1) 聖隷学園・聖隷福祉事業団…5 名（就職者の 17.2%）

リハビリテーション学部卒業生の内訳

卒業生数	100	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数 (*1)	98	理学療法士	47	32	15
		作業療法士	26	20	6
		言語聴覚士	23	17	6
		その他の職種	2	1	1
進学 (*2)	4				
その他 (*3)	2				

(*1) 聖隷福祉事業団…11 名（就職者の 11.2%）

(*2) 進学者 4 名は就職もしています。

(*3) 「その他」は就職しない者 2 名です。

◆ 就職支援（大学）

2024 年度 主な就職支援プログラム			
4月	春セメスター進路ガイダンス	10月	公務員試験対策講座 【社】社会福祉士国試対策講座 【社】介護福祉士国試対策講座
5月	【看】進路ガイダンス 【社】介護福祉士国試対策講座 【PT・OT・ST】進路ガイダンス	11月	【看】4年次生による就職活動報告会 【看】保健師国試対策講座 【社・こ】4年次生による就職活動報告会 【社】卒業生による福祉の仕事報告会 【こ】卒業生と在学生との懇談会 【PT・OT】リハビリテーション国試対策講座
6月		12月	【看】看護師・保健師国試対策講座 【社・こ】SPI 対策模擬テスト 【社】社会福祉士国試対策講座 【社】介護福祉士国試対策講座 【社・こ】就職先研究（聖隷福祉事業団） 【社・こ】就職先研究（天竜厚生会）
7月	【看】進路ガイダンス 【PT・OT】進路ガイダンス	1月	【看】卒業時ガイダンス 【看】進路ガイダンス 【看】履歴書の文章表現・構成の理解講座 【看】看護師国試対策講座 【社・こ】スーツ着こなし講座 【社】介護福祉士国試対策講座
8月	公務員試験対策講座 【PT・OT・ST】病院・施設説明会 （静岡県・近隣県） 【PT・OT・ST】病院・施設説明会（聖隷関係） 【ST】進路ガイダンス	2月	【社・こ・PT・OT ST・助】卒業時ガイダンス 【看】進路ガイダンス 【看】卒業生と在学生との懇談会 【看】履歴書実践演習 【看】就職マナー・面接対策講座 【看】スーツ着こなし講座 【社・こ】SPI 対策模擬テスト 【PT・OT】4年次生による就職活動報告会 【PT・OT・ST】就職マナー・面接対策講座 【PT・OT・ST】スーツ着こなし講座 【PT・OT・ST】就職先研究（聖隷福祉事業団）
9月	秋セメスター進路ガイダンス 公務員試験対策講座 【看】キャリアセミナー（静岡県・愛知県東部） 【看】キャリアセミナー（聖隷関係）	3月	論作文対策講座、筆記試験対策講座 【社・こ】大規模法人就職説明会 【社・こ】施設説明会 【ST】4年次生による就職活動・国試報告会

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

※【看】：看護学部対象 【助】：助産学専攻科対象

【社】：社会福祉学科対象 【こ】：こども教育福祉学科対象

【PT】：理学療法学科対象 【OT】：作業療法学科対象 【ST】：言語聴覚学科対象

◆ 卒業生の進路状況（専門学校）

2024 年度 卒業生の進路状況

（単位：人）

卒業生数	19	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数（*1）	19	介護福祉士	18	12	6
		介護職	1	1	0

（*1）聖隷福祉事業団…9 名（就職者の 47.4%）

◆ 就職支援（専門学校）

2024 年度 主な就職支援プログラム			
4 月	進路ガイダンス	10 月	2 年次生による就職活動報告会 介護福祉士国試対策講座
5 月	介護福祉士国試対策講座 社会人になるための基礎講座 社会人マナー講座 スーツ着こなし講座	11 月	卒業生と在学生との懇談会
6 月		12 月	介護福祉士国試対策講座 履歴書の書き方・面接の受け方講座
7 月		1 月	介護福祉士国試対策講座 就職先研究（聖隷福祉事業団）
8 月		2 月	就職内定後の心構え・社会人としての心構え講座 卒業時ガイダンス
9 月	進路ガイダンス	3 月	施設説明会

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

◆ 2024 年度奨学金受給状況《大学・大学院》

所属	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	大学同窓会・後援会奨学金	看護学研究科生支援奨学金	聖隷グループ奨学会	日本学生支援機構奨学金				K・M・奨学金	M・H・奨学金	難波千鳥奨学金	廣田育英会奨学金	浜松市奨学金	静岡県看護職員修学資金	静岡県看護協会修学貸与金	静岡県介護福祉士修学資金	静岡県保育士修学資金	ニッセイ聖隷健康福祉財団奨学金	合計		
						合計	第一種	第二種	給付											在学生数	貸与人数	受給割合
看護学部	1年次	0			20	69	30	25	14				0	0	0	1				165	90	54.5%
	2年次	0	1		38	60	20	24	16	0			0	0	2	0				157	101	64.3%
	3年次	2	0		48	74	29	29	16	0	1	0	0	0	1	0				157	126	80.3%
	4年次	0	0		59	59	25	21	13	1	1	1	0	0	3	0				154	124	80.5%
	計	2	1		165	262	104	99	59	1	2	1	0	0	6	1				633	441	69.7%
社会福祉学部	1年次	1			0	19	7	7	5				0	0			1		0	55	21	38.2%
	2年次	0	0		0	29	10	13	6	0			0	0			1		0	49	30	61.2%
	3年次	0	0		1	38	12	16	10	0		1	1	0			2	7	0	85	50	58.8%
	4年次	0	0		0	38	14	14	10	0		0	0	0			5	10	0	79	53	67.1%
	計	1	0		1	124	43	50	31	0		1	1	0			9	17	0	268	154	57.5%
リハビリテーション学部	1年次	0			1	43	16	21	6				0	0					0	105	44	41.9%
	2年次	1	0		1	40	16	17	7	0			0	0					0	89	42	47.2%
	3年次	0	0		1	45	11	20	14	0			0	1					0	100	47	47.0%
	4年次	0	0		1	36	17	15	4	0			0	0					0	106	37	34.9%
	計	1	0		4	164	60	73	31	0			0	1					0	400	170	42.5%
国際教育学部	1年次	0				20	9	7	4				0	0				3		43	23	53.5%
	2年次	0	0			20	8	9	3	0			1	0				4		51	25	49.0%
	計	0	0			40	17	16	7	0			1	0				7		94	48	51.1%
学部計		4	1		170	590	224	238	128	1	2	2	2	1	6	1	9	24	0	1,395	813	58.3%
助産学専攻科		0			10	1	0	1							0	0				17	11	64.7%
大学院 博士前期課程	1年次					2	2	0												19	2	10.5%
	2年次			0		1	0	1												20	1	5.0%
	計			0		3	2	1												39	3	7.7%
大学院 博士後期課程	1年次					1	1	0												9	1	11.1%
	2年次			0		1	1	0												6	1	16.7%
	3年次			0		0	0	0												25	0	0.0%
	計			0		2	2	0												40	2	5.0%
大学院計				0		5	4	1												79	5	6.3%
大学全体		4	1	0	180	596	228	240	128	1	2	2	2	1	6	1	9	24	0	1,491	829	55.6%

は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2025年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆ 2024 年度奨学金受給状況《専門学校》

所 属	学 年	菅 野・太 田・長 谷 川 奨学 会	大 学 同 窓 会 ・ 後 援 会 奨学 金	日 本 学 生 支 援 機 構 奨 学 金				K ・ M ・ 奨 学 金	浜 松 市 奨 学 金	静 岡 県 介 護 福 祉 士 修 学 資 金	聖 隷 福 祉 事 業 団 奨 学 金	ク リ ス ト フ ア ー 介 護 福 祉 士 奨 学 金	天 竜 厚 生 会 介 護 福 祉 士 奨 学 金	ニ ッ セ イ 聖 隷 健 康 福 祉 財 団 奨 学 金	合 計		
				合 計	第 一 種	第 二 種	給 付								在 学 生 数	貸 与 人 数	受 給 割 合
介 護 福 祉 専 門 学 校	1 年 次	0		1	1	0	0		0	4	3	2	0	0	12	10	83.3%
	2 年 次	0	0	3	1	1	1	0	0	3	8	2	0	0	19	16	84.2%
	合 計	0	0	4	2	1	1	0	0	7	11	4	0	0	31	26	83.9%

は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2025年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆グローバル教育推進

2024 年度の本学の交流協定校は以下の 10 校です。2024 年 7 月にはインドネシアのハサヌディン大学と交流協定を締結しました。

	国・地域	交流協定校名	締結日
1	中国	陸軍軍医大学 (Army Medical University)	2004 年 9 月 21 日
2	シンガポール	ナンヤン理工学院 (Nanyang Polytechnic)	2006 年 4 月 25 日
3	アメリカ	サミュエルメリット大学 (Samuel Merritt University)	2013 年 11 月 5 日
4	シンガポール	シンガポール工科大学 (Singapore Institute of Technology)	2017 年 9 月 26 日
5	アメリカ	シアトルパシフィック大学 (Seattle Pacific University)	2019 年 3 月 14 日
6	アメリカ	ハワイ大学マノア校 (University of Hawaii at Manoa)	2019 年 5 月 2 日
7	中国	中山大学附属第一病院 (First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University)	2019 年 9 月 23 日
8	フィリピン	マリアノ・マルコス州立大学 (Mariano Marcos State University)	2021 年 5 月 27 日
9	タイ	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2022 年 11 月 1 日
10	インドネシア	ハサヌディン大学 (Hasanuddin University)	2024 年 7 月 12 日

2024 年度は春セメスターに 2 つ、秋セメスターに 5 つの学生派遣プログラムを実施しました。
また、春セメスターに 2 つ、秋セメスターに 2 つの学生受け入れプログラムを実施しました。

2025 年 3 月 4 日・5 日には本学大学院国際研究委員会主催の聖隷国際研究コンファレンス 2025 (SIRC2025)を開催し、海外・国内から口頭発表 75 演題（うち学内 2 演題）、ポスター発表 15 演題（うち学内 5 演題）の発表がありました。本コンファレンスは 7 回目となります。交流協定校のシンガポールのナンヤン理工学院からは、学生 21 名が口頭発表のために来学しました。発表後には、国際保健医療福祉プログラムの学生と交流会を行いました。また、“Student Work Showcase and Cultural Exchange”をテーマとした学生セッションを実施し、本学より 4 グループ、交流協定校より 2 グループが参加し、学修活動や文化の紹介を通して交流を深めました。

学術交流の一環として中山大学附属第一病院との合同オンラインセミナーを全 3 回開催し、本学教員・大学院生・学部生を含め延べ 75 名が受講しました。2024 年度で 5 回目となります。

【学生派遣】

プログラム		期間	対象	受入機関・内容	参加学生
海外研修	海外研修 (シンガポール)	9/1～9/8 8 日間	看護・社福学部 全学年	ナンヤン理工学院 講義・演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	看護 1 年 9 名
	アメリカ教育研修	2/12～ 2/21 10 日間	こども学科・国際教育学部 全学年	シアトルパシフィック大学 講義・演習参加、学生交流、幼児教育施設の見学等	こども 3 年 1 名 国際 1 年 3 名 計 4 名
国際専門研修	シンガポールリハビリテーション研修	3/16～ 3/23 8 日間	理学療法学科 作業療法学科 2～4 年次生	シンガポール工科大学 講義・演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	PT2 年 6 名 OT2 年 5 名 計 11 名
	アメリカ看護研修	3/16～ 3/26 11 日間	看護学部 2～3 年次生	サミュエルメリット大学 講義・シミュレーション演習参加、学生交流、保健医療福祉施設の見学等	看護 3 年 1 名 2 年 5 名 計 6 名
国際実習	国際看護実習	9/1～ 9/15 15 日間	看護学部 4 年次生	ナンヤン理工学院 見学・観察実習、参加実習、講義やディスカッション、振り返り、文化体験等	看護 4 年 2 名 計 4 名
	国際理学療法実習	2/15～ 3/2 16 日間	理学療法学科 3 年次生	マリアノ・マルコス州立大学 講義、臨床実習、学生交流、文化体験等	PT3 年 6 名 計 6 名
国際支援アクティブラーニングⅡ	カンボジア JH プロジェクト	2/5～ 2/12 8 日間	全学部 2～3 年次生	ジャパンハート医療センター ジャパンハート医療センターでの支援活動・文化体験等	看護 3 年 3 名 計 3 名

【学生受入】

プログラム		期間	対象	研修・実習先	参加者
研修	サミュエルメリット大学研修生	6/17～ 6/24 8日間	サミュエルメリット大学 看護学部生	聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、訪問看護ステーション（高丘、細江、三方原、住吉、北斗わかば）	学生 10 名 教員 2 名 計 12 名
	マリアノ・マルコス州立大学研修生	10/19～ 11/2	マリアノ・マルコス州立大学 ヘルスサイエンス学部	聖隷三方原病院地域障がい者総合リハビリテーションセンター、森町病院、こぼり整形外科クリニックなど	学生 5 名 教員 1 名 計 6 名
	シンガポール工科大学	12/9～ 12/9 5日間	シンガポール工科大学 理学療法学科生 作業療法学科生	聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院、聖隷デイサービスセンター 三方原、三方原ベテルホーム	PT10 名 OT6 名 ST1 名 教員 2 名 計 19 名
実習	ナンヤン理工学院 看護実習生	9/2～ 9/13 12日間	ナンヤン理工学院 ヘルス & ソーシャルサイエンス学部 看護学科生 2 名	聖隷三方原病院、おおぞら療育センター、エデンの園、訪問看護ステーション 細江	学生 2 名 計 2 名
大学院	聖隷国際研究コンファレンス	3/3～3/4 2日間	NYP ソーシャルサイエンス学部 看護学科・社会福祉学科学生	研究発表、学生交流	学生 24 名 教員 2 名 計 26 名

1. 2024 年度の重点取組目標の振り返り

《中高一貫コース》

本校が目指す学校像を示す指針として、

(1) スクール・ミッション(教育目標)を次のように、掲げている。

本校は、キリスト教主義に基づく教育を行っている学校です。「神様からいただいた命を、誰かのために役立てる」という奉仕の心がキリスト教教育の根幹となります。

ですから、他者への思いやりや規律を重んじた教育を行い、社会に出てからも、人のために役立つ仕事をする事ができる人材を育てることを目標にしています。

(2)① スクール・ポリシーを、次の 3 観点に整理しました。

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
1. 建学の精神である「隣人愛」と豊かな教養に基づき、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動することができる。 2. 習得した知識や技能を活用して、課題を発見し、その解決に向けて価値を創造しようとリーダーシップを発揮する 3. 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身に付けている。 4. 地域社会・国際社会のニーズを捉え、使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 5. ありのままの自分を受け容れる(自己受容)ことができる。	1. 学習意欲を高め、確かな学力を養う主体的な学びを行う。(振り返り学習、質問机(職員室前の廊下)、小論クライミング、聖隷プロジェクト(高大連携)) 2. キリスト教精神に基づく「隣人愛」を深く理解し、建学の理念と精神の育成に関わる学校設定科目を置く。(礼拝、特別礼拝、宗教、労作) 3. 国際社会に関心を深め、国際感覚及び語学力・表現力を養う。(英語イマージョン授業、オンライン英会話、グローバル教育講習、海外留学、国際交流) 4. 学校行事、部活動、キャリア教育(Locus)等を通して、個々の資質・能力を磨く。	1. 自主性を育て、自己肯定感を高めながらも、自分も他者も幸せにできる力を付けることに取り組む生徒 2. 医療人材育成に 向けたプログラム等や海外短期留学等に積極的に参加し、自己の可能性を高めることができる生徒 3. 学習のみならず学校行事、部活動及び生徒会活動等に積極的に取り組むことができる生徒 4. 礼拝や労作を通して、命の大切さ他者へのかかわり、心豊かな生き方を養いたい生徒 5. 自ら未来を切り拓く確かな学力としなやかな人間力を身に付けて、社会に求められるリーダーを目指す生徒

◆重点取組目標 1 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。

	成果目標	評価	成果および評価
①	○各教科全員 2 回以上の授業参観を実施する。他教科の授業を 2 回以上参観する。両方ともにできたと答える教員 100%。	A	達成状況は 100 パーセント。6 月の授業公開週間は授業見学と研究授業日の設定のバランス良く、先生方が授業改善に向けて取り組みやすかった。11 月については検討の余地がある。いずれにしても先生方が授業について考える交流の機会として定着

			しつつある。
②	担当教科全員と担当教科以外の者が関わり、チェック項目に従い、ミスなく行うことができたと答える教員 100%。	A	教科内でのチェックの後、各教科代表者2人で再度校正し、他教科の目線で問題の受け止め方や見やすさなどを確認することが出来た。
③	各学年・分掌で業務改善・軽減に「取り組むことができた」と答える教員 60%以上。 生徒と向き合う時間が確保できたが、80%以上	B	業務の軽減に取り組めたとする教員は半数強、生徒と向き合う時間が増えたと答える教員は6割程度であった。業務が多岐に渡る中、各自、各部署の努力の跡が見られる。

◆重点取組目標 2 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

	成果目標	評価	成果および評価
①	○「興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われている」と答える生徒 80%以上。 ○「授業の内容がよく分かる」と答える生徒 80%以上。	B	○各教科レベルで様々な取り組み、効果的な活用の仕方などが研究されている。 ○生徒対象のアンケートでは、興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われていると回答した生徒 7 は 68%、授業の内容がよく分かると回答した生徒は 87%であった。
②	○教科会等を利用して、授業内容、進度、レベル当りの教員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなるよう、授業改善に取り組む教員が 90%以上。 ○「続けてその教員の授業を受けたい」と答える生徒が 70%以上。	A	○どの教科でも「担当者間で進度や授業内容についての定期的な話し合いを持てた」「授業改善に取り組めた」と回答した教員は 85%であった。 ○「続けて授業を受けたい」と回答した生徒は 88%であった。
③	○「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が 90%以上。	A	○中学では「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」と回答した生徒が 88.2%。「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と回答した生徒が 89.1%であった。 ○高校でもそれぞれ 88.2%、89%という数値であった。進路実現に向けて、各教科とも受験校に沿った対策を立て、問題演習、面接、ディベート、小論文添削などを概ね行うことができた。

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標1 特徴ある教育の充実を図る。

	目標の達成方法(取組手段)	評価	成果および評価
①	建学の精神を理解・実践するための研修を教員ミーティングの中で継続し、本校の教育理念に沿った教育活動の充実につなげる。	B	毎朝の礼拝の内容を教員が協働して計画することができました。建学の精神の理解について、すべての教員が「理解が深まった」と回答しました。
②	生徒が体験活動の中で建学の精神を育む機会を設ける。	C	文化祭で SDGs をテーマとした発表を行うなど、隣人愛の精神で社会に貢献することを学ぶ活動を行いました。建学の精神への理解が深まったと答えた生徒は 72.5%でした。グローバルな視野で建学の精神を発揮する力を育む教育が進みつつあります。
③	生徒が英語を用いる機会・行事・活動を増やす。	A	今年度は、すべてのホームルーム活動をネイティブスピーカーの担任が担当し、英語イマージョンプログラムの充実を図ることができました。「英語イマージョンにより英語力が向上した」と答えた生徒は 90%でした。
④	DP に繋がる学習スキルを体系化した教育を実践する。	B	昨年度から取り組んでいる GSC Skills の内容を見直し、さらに分かりやすい形にまとめることができました。学習スキルを意識して学習に取り組むことができていると答えた生徒は昨年度よりも 5%上昇し、82.5%という結果になりました。次年度以降も引き続き取り組むことで、各生徒が身につけた学習スキルを新たな学びの中で用いながら、さらにスキルを伸ばしていくことができるようなサイクルを形成していきたいと思います。
⑤	探究型教育の理解・実践に向けた教員研修を実施する。	B	学習スキルのより深い理解や、学習スキルを身につけさせるための評価方法の研究、また、国際バカロレア・ディプロマプログラムの教育内容の研究など研修を行い、すべての教員が、「探究型の教育を理解・実践できた」と回答する結果となりました。今後は、探究型教育の他校の実践例などに触れる機会を設け、さらに本コースが目指す探求型の授業をの充実を図ることを目指したいと思います。

◆重点取組目標2 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。

	目標の達成方法(取組手段)	評価	成果および評価
①	発達支援に関する教員研修を実施する。	B	発達支援の専門家に協力していただき、生徒の発達特性をより深く理解し、支援につなげることができました。すべての教員が研修が役に立ったと回答しました。
②	生徒・保護者とコミュニケーションを十分に図り、問題の早期発見に努める。	B	「生徒の問題を早期に発見し支援することができた」と答えた教員は昨年度より 20%増加し 80%という結果でしたが、生徒支援に関しては、さらにきめ細かな実態把握や対応を行う必要があると考えています。
③	教育相談体制を充実させ、生徒理解と個に応じた指導・支援を行う。	B	すべての教員が「カウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができた」と回答しました。スクールカウンセラーを交えてケース会議を行い、生徒支援に役立てることができました。
④	教員間で情報共有し、適切に個別の支援を行う。	A	すべての教員が、「教員間で連携し問題を解決できた」と回答しました。連携はできていますが、仕事量のバランスには課題がある状況です。

2. 2025 年度の重点取組目標と展望

《中高一貫コース》

目指す学校像

キリスト教主義に基づく教育を行い、他者への思いやりや規律を重んじて、社会に出てからも人のために役立つ仕事ができる人材を育てることを目標とします。

安定した学校運営

◆重点取組目標1. 生徒募集(定員確保)

特に中学校の定員がこの2年大幅に下回っています。中学校が魅力を増やし、今まで以上に積極的かつ効果的に広報活動を展開し、公立中学や他私立中学との違いを明確にしていきます。

◆重点取組目標2. 中学校の広報活動強化(パンフレットの充実)

2025 年度は「伸ばす教育」を「SEED(Seirei Exploration Efficiency Development)プログラム」として、生徒が持つ種(芽)を伸ばし、VUCA(社会やビジネス環境が予測困難で不安定な状態にある)時代を乗り越える力を育てることをアピールします。

◆重点取組目標3. アントレプレナーシップクラスの新設

(基本コンセプト)

社会と繋がった探究活動と国際基準スキルの習得で、世界に羽ばたける人材。これからの世の中を創造する人材を育てる。

～「誰かの幸せを 自分の喜びに」できる生き方を～

このクラスはアントレプレナー(起業家)を育成することだけを目的としていません。ここで学ぶことを通して、自ら情報を手に入れ、判断し、考え、決定し、行動できる力を獲得することを目指します。この学びの過程で、自分の生き方を見つけ、自分の人生を自らの足で歩いていくことの素晴らしさを実感し、実際に自ら人生を切り開き社会を変革していける高い能力を身につけることを目標に、高校普通科にアントレプレナーシップクラスを新設いたします。

◆重点取組目標4. 通信制課程設置の検討

不登校の生徒が増加傾向にあり、県西部浜松地区には広域通信制高校、学習塾が母体となる通信制高校はあるのですが、全日制高等学校が母体となる通信制課程を持つ学校がありません。

設置に向けて検討を開始いたします。

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標1 特徴ある教育のさらなる充実を図ります。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	建学の精神を礎としたグローバル教育実践するための教員研修を継続的にを行います。	「建学の精神の理解が深まった」と答える教員 80%以上を目指します。
②	建学の精神を育む学びの機会を設けます。	「建学の精神の理解が深まった」と答える生徒 80%以上を目指します。
③	生徒が英語を用いるイベントや学習活動を増やします。	「グローバルスクールコースの英語イマージョンにより英語力が向上した」と答える生徒 80%以上を目指します。
④	DP に繋がる学習スキルを体系化した教育を実践する。	「学習スキルを意識して学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上を目指します。

◆重点取組目標2 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成します。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	生徒・保護者とコミュニケーションを十分に図り、問題の早期発見に努めます。	「生徒の問題を早期に発見し支援することができた」と答える教員 80%以上を目指します。
②	教育相談体制を充実させ、生徒理解と個に応じた指導・支援を行います。	「スクールカウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができた」と答える教員 80%以上を目指します。
③	教員間で情報共有し、適切に個別の支援を行います。	「教員間で連携し問題を解決できた」と答える教員 100%を目指します。
④	発達支援に関する教員研修を実施します。	「発達支援に関する研修が生徒支援に役立った」と答える教員 80%以上を目指します。

3. 2024 年度実績

1) 生徒募集の推移

(単位：人)

		入学 定員	2025 年度入学者 (2024 年度募集)		2024 年度入学者 (2023 年度募集)		2023 年度入学者 (2022 年度募集)	
			志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
高校		294	1,084	325	1,105	294	1,176	333
中 学	中高一貫コース	70	28	26	27	23	48	40
	グローバル スクールコース		15	14	25	24	14	13
	計		43	40	52	47	62	53

※高校の入学者数には中学校からの内進生を、中学グローバルスクールコースの入学者数には、小学校からの内進生を含みます。

2) 卒業生の進路状況

(単位：人)

	大学	短期 大学	専門 学校	受験 準備	就職	留学	未定	合計
男子	121	1	20	4	2	2	1	151
女子	120	8	62	3	3	0	1	197
合計	241	9	82	7	5	2	2	348
比率	69.3%	2.6%	23.6%	2.0%	1.4%	0.6%	0.6%	100.0%

3) 大学合格実績

《国公立大学 24 名》

千葉大(教育)1名、京都工芸繊維大(工芸科学)1名、神戸市外国語大(外国語)1名、北九州市立大(外国語)1名、浜松医科大(看護)1名、静岡県立大4名(国際関係3、食費栄養科1)、静岡文化芸術大(文化政策)2名、愛知教育大(義務教育/音楽)1名、徳島大(放射線)1名、秋田大(看護)1名、滋賀大(教育)1名、山梨大(工、看護)2名、宮崎大(工)1名、香川県立保健医療大(看護)1名、島根県立大(地域政策)1名、名桜大(国際)2名、公立鳥取環境大(経営)1名、釧路公立大(経済)1名

《私立大学 444 名》

聖隷クリストファー大学62名(うち入学者47名)、国際基督教大(教養)1名、東京理科大3名(理学部第1部1、創域理工2)、学習院大(文、国際社会科学)2名、明治大(国際日本)1名、青山学院大(教育人間科学)4名、法政大7名(文4、社会2、法1)、関西大(社会安全、政策創造、人間健康)3名、関西学院大12名(教育1、社会1、人間福祉2、社会2、商4、理2)、立命館大4名(国際関係1、理工3)、明治学院大5名(心理1、国際3、法1)、南山大(国際教養、理工)2名、同志社女子大3名(表象文化2、現代社会1)、獨協大(外国語、経済)2名、日本大7名(国際関係3、法2、理工2)、東洋大6名(文1、経済1、健康スポーツ3、経済イブニング1)、駒澤大(グローバル・メディア・スタディーズ)1名、近畿大17名(総合社会1、経済1、経営12、理工3)、京都産業大13名(外国語1、文化2、経営10)、龍谷大5名(文1、国際1、法3)、愛知大13名(文8、地域政策3、国際コミュニケーション1、現代中国1)、

中京大 7 名 (文 2、現代社会 1、経済 1、経営 2、工 1)、
 名城大 13 名 (法 7、経済 2、経営 1、理工 1、薬 2)、大東文化大 6 名 (社会 1、法 2、経済 3)、
 東海大 (人文、児童教育、文化社会、国際、経営、海洋、体育) 7 名、
 亜細亜大 (国際関係、経済) 2 名、神奈川大 (経済) 2 名、北里大 (放射線) 1 名、
 順天堂大 (国際教養) 2 名、昭和女子大 (食健康科学) 3 名、拓殖大 (外国語) 1 名、
 名古屋外国語大 (外国語) 6 名、藤田医科大 (保健衛生/リハビリ) 1 名、
 名古屋学芸大 11 名 (ヒューマン/子ども 7、メディア造形 4)、武蔵野大 6 名 (文 1、経済 2、経営 2、人間科学 1)、愛知学院大 7 名 (心理 1、法 2、経済 1、健康科学 3)、中部大 11 名 (人文 1、国際関係 1、経営情報 6、工 3)、他

常葉大 38 名 (理学 4)、岐阜医療科学大 (放射線技術) 1 名、
 鈴鹿医療科学大 (看護) 1 名、豊橋創造大 5 名 (看護 4、理学療法 1)、
 名古屋葵大 (旧：名古屋女子大) (看護) 2 名、浜松学院大 2 名 (地域共創学部) 2 名

《海外の学校 2 名》

Collin College - Spring Creek Campus 1 名、Ateneo de Manila University 1 名

4) 就職実績

《就職内定者 5 名》

ヤマハ発動機 1 名、うなぎパイ本舗 1 名、遠鉄観光開発 1 名、
 トヨタバッテリー 1 名、鈴和建設 1 名

5) 国際交流 (高等学校)

派遣 / 受入	短期プログラム	長期プログラム
本校語学研修プログラム (3 か月)	カナダ 1 名 オーストラリア 4 名 全員 2025 年 1 月～3 月	なし
本校から私費留学	なし	イタリア 2 名 2024 年 9 月～2025 年 7 月
県教委主催海外体験促進事業 (語学研修)	なし	なし
受入れ留学生	2025 年 4 月～2025 年 12 月 オーストラリア 1 名	2023 年 8 月～2026 年 3 月 中国から 1 名

国際交流 (中学)

派遣 / 受入	短期プログラム	長期プログラム
本校語学研修プログラム (3 か月)	なし	なし
本校から私費留学	なし	なし
県教委主催海外体験促進事業 (語学研修)	なし	なし
受入れ留学生	2025 年 1 月～2025 年 3 月 オーストラリア 1 名	2024 年 9 月～2025 年 7 月 オーストラリア 1 名

6) 部活動の主な実績

部活動名	2024 年度 主な実績
男子 バレーボール	第 72 回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 3位 第 71 回東海高等学校総合体育大会(インターハイ東海大会)出場 静岡県西部高等学校バレーボール選手権大会 準優勝 第 77 回全日本バレーボール高等学校選手権大会 静岡県予選大会 3位 第 43 回静岡県高等学校新人兼バレーボール選手権大会 3位
男子 サッカー	令和6年度第 72 回静岡県高等学校総合体育大会サッカー競技静岡県予選サッカー大会ベスト4 高円宮杯 JFAU18 サッカーリーグ 2024 静岡スルガカップ A リーグ昇格
野 球 部	第 106 回全国高等学校野球選手権 静岡大会 準優勝 第 77 回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会 3位 秋季東海地区高等学校野球大会(東海大会)出場ベスト8 第 8 回浜松市内高校野球大会 優勝
女子 ソフトボール部	第 72 回静岡県高等学校総合体育大会ソフトボール競技 準優勝 第 28 回静岡県高等学校男子・女子ソフトボール選手権大会 準優勝 第 58 回静岡県高等学校新人ソフトボール大会 準優勝 第 55 回東日本高等学校女子ソフトボール大会 優勝
女子 バレーボール	令和6年度静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 ベスト8 第 77 回全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会 ベスト8 令和6年度静岡県高等学校バレーボール選手権大会ベスト 16 令和6年度 第21回 静岡県私立高等学校男女バレーボール選手権大会 準優勝 令和6年度第30回東海私立高等学校男女バレーボール選手権大会 出場
少林寺拳法部	第 72 回静岡県高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技 女子単独演武 1 位、男子組演武 1 位、女子組演武 1 位、 女子団体演武 1 位 令和 6 年度静岡県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技 女子自由単独演武 1 位、女子規定単独演武 2 位、女子規定組演武 1 位
放 送 部	【第 48 回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文 2024 放送部門】 ビデオメッセージ部門 「知ってる？アルミパックご飯！」 Gブロック 6 位入賞 【令和6年度静岡県高等学校総合文化祭放送部門 兼 第 45 回静岡県高等学校放送新人コンクール】 ビデオメッセージ部門 「農縁物語」 第 4 位 【第 21 回北信越高等学校選抜放送大会・石川大会】 ビデオメッセージ部門 「農縁物語」 優良賞

1. 児童募集の推移

入学定員* 60 人	志願者数	入学者数
2025 年度入学者 (2024 年度募集)	56	49
2024 年度入学者 (2023 年度募集)	36	31
2023 年度入学者 (2022 年度募集)	55	41
2022 年度入学者 (2021 年度募集)	52	45
2021 年度入学者 (2020 年度募集)	96	86

*2020 年度入学者、2021 年度入学者は 1 年生 60 人、3 年生 30 人、5 年生 30 人を募集

*2021 年度入学者以降は 1 年生 60 人を募集

2. 教育の特色

本校の学びの根幹には、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」というキリスト教の教えである「隣人愛」の精神があります。変化の激しい時代だからこそ、どんな時代になっても決して変わることはない大切なことを土台として、すべての学びを展開しています。

◆英語イマージョン教育 English Immersion Education

本校の英語イマージョン教育は、母語である日本語力を大切にします。英語での授業は、多国籍の外国人による多様な見方に触れながら探究的に展開されます。2 つの言語を知り、違う視点を持つことで、世界を、日本を、自分を深く知ることができます。もちろん、ツールとしての英語を身につけて、世界のどこにいても、自分で考え、表現できる力も養っていきます。児童は、外国人教員から英語で学ぶという環境で、日常会話レベルの英語から、学習英語レベルへと自然に英語力を身につけていきます。

◆探究型学習 Inquiry-based Learning

児童自らが課題を発見・設定し、その解決に向けて情報を収集・整理・分析し、友人や先生との意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動です。探究型の学習では、児童の思考力や判断力、表現力などの育成を目的としており、教科書の知識を詰め込む学習ではなく、体験活動を中心にすえ、主体的に学び問題を解決することで、次の学習に役立つ本当に理解された知識を積み重ねていきます。

3. 国際バカロレア初等教育プログラム

International Baccalaureate Primary Years Programme

2024 年 2 月、聖隷クリストファー小学校とクリストファーこども園は、国際バカロレア機構（IB: International Baccalaureate）が提供する国際的な教育プログラムのうち、3～12 歳児が対象となる「プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）」の国際バカロレア（IB）ワールドスクールに認定されました。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

◆ 年間行事

日付	内容
4月 1日(月)	保育開始
6日(土)	入園式(60名入園)
8日(月)	1学期始園日、始園日礼拝・進級式
17日(水)	イースター礼拝
20日(土)	保護者会総会、子育て講演会、クラス懇談会
5月 8日(水)	母の日礼拝
11日(土)	入園説明会(次年度入園希望満3・3歳児対象)
16日(木)	健康診断①
17日(金)	交通安全教室(4・5歳児)
22日(水)	ジョン・カミツカ氏 ピアノコンサート(5歳児)
24日(金)	尿検査
28日(火)	オープン保育(4歳児)、
29日(水)	園外保育(5歳児) 里山体験
30日(木)	大学生と一緒に運動遊び(4歳児)
6月 4日(火)	オープン保育(5歳児)
5日(水)	
6日(木)	
11日(火)	プール開き
12日(水)	花の日礼拝
13日(木)	花の日訪問
20日(木)	歯科検診
25日(火)	オープン保育(3歳児)
26日(水)	
7月 12日(金)	クラス懇談会、サマーフェスタ(0-満3歳児)
13日(土)	サマーフェスタ(3-5歳児)
17日(水)	月礼拝
19日(金)	1学期終園日
26日(金)	園庭プロジェクト
8月 1日(木)	小学1年生同窓会
8月 28日(水)	夏期保育(1号認定児)
29日(木)	
30日(金)	2学期始園日、プールおさめ
9月 2日(月)	防災引渡訓練
4日(水)	月礼拝
10日(火)	入園説明会(次年度入園希望3号認定児対象)
10月 10日(木)	プレイデー(運動会)2・3歳児 於: サラグリーンアリーナ
11日(金)	プレイデー(運動会)4・5歳児 於: サラグリーンアリーナ
16日(水)	月礼拝
17日(木)	お魚大好き食育講座(5歳児)
19日(土)	どうぶつしょうぎ体験会[保護者会主催]
23日(水)	体力測定(5歳児)、 自然体験企画「ポップコーン作り」(3歳児)
24日(木)	自然体験企画「すいとん作り」(4歳児)
25日(金)	人形劇(むすび座)[保護者会主催]
28日(月)	遠足(4歳児・動物園)
29日(火)	園外保育(5歳児) 里山体験
30日(水)	
31日(木)	健康診断②

日付	内容
11月 5日(火)	ホンダサッカー教室(5歳児)
6日(水)	収穫感謝礼拝
7日(木)	収穫感謝訪問
9日(土)	園庭プロジェクト
12日(火)	自然体験企画「五平餅作り」(5歳児)
13日(水)	アジア学院交流会(4歳児)
16日(土)	幼児祝福式(3.5歳児希望者)
19日(火)	アフリカ・中東より幼児教育関係者来園・交流
27日(水)	オープン保育(3歳児)
28日(木)	
12月 2日(月)	学園クリスマスツリー点火祭
7日(土)	クリスマスのつどい(0-満3歳児)
14日(土)	クリスマスのつどい(3-5歳児)
18日(水)	月礼拝
19日(木)	遠足(5歳児・のんほいパーク)
20日(金)	2学期終園日
1月 8日(水)	3学期始園日
9日(木)	おせち料理
16日(木)	園外保育(5歳児) 里山体験、 自然体験企画「味噌作り」(4歳児)
17日(金)	園外保育(5歳児) 里山体験
21日(火)	自然体験企画「かんぴょう巻作り」(3歳児)
22日(水)	月礼拝
23日(木)	自然体験企画「竹巻パン作り」(5歳児)
30日(木)	はごろも「夢」講演会 伊勢ヶ濱部屋 翠富士関 来園・交流
2月 4日(火)	入園説明会(次年度入園希望満3歳児対象)
5日(水)	月礼拝
12日(水)	オープン保育(5歳児)
13日(木)	
18日(火)	オープン保育(3歳児)
19日(水)	
20日(木)	クラス懇談会(0・1歳児)
21日(金)	クラス懇談会(2歳児)
26日(水)	オープン保育(4歳児)
27日(木)	
3月 5日(水)	月礼拝
6日(木)	クリストファー小学校との幼小連携プログラム(5歳児)
7日(金)	卒園お別れパーティー
13日(木)	卒園礼拝(5歳)
15日(土)	卒園式(58名卒園)
17日(月)	3学期終園日
24日(月)	新年度PYPユニット会議
25日(火)	
26日(水)	IB PYP職員研修(こども園・小学校合同)
28日(金)	新年度学年会議
29日(土)	園庭プロジェクト
31日(月)	年度末職員研修

※毎週2回 親子ひろば 実施

毎週1回 国際バカロレア教育推進こども園学年ミーティング 実施

学校法人 聖隷学園 中長期財務計画

中長期財務計画 学園全体【2023年度決算-2031年度】

◆事業活動収支計算書

※2026年度グローバルスクール中高部設置(申請中)

(単位:千円)

主な事業計画(要因)	国際教育 学部開設		グローバルスクール生 高校進学	国際教育学部 完成年度			GS生60名 高校進学		GS生高校卒業 完成年度
項目	2023年度 決算	2024年度 決算	2025年度 予算	2026年度 中長期	2027年度 中長期	2028年度 中長期	2029年度 中長期	2030年度 中長期	2031年度 中長期
1 学生生徒等納付金	2,923,019	2,911,358	2,938,192	3,077,077	3,217,862	3,323,030	3,477,315	3,586,250	3,631,660
2 事業活動収入 ①	4,213,504	4,349,771	4,147,015	4,242,119	4,413,255	4,554,377	4,739,472	4,874,797	4,935,644
3 人件費 ④	2,659,617	2,835,263	2,800,607	2,878,448	2,996,102	3,002,003	3,047,150	3,076,092	3,076,957
4 教育研究経費	967,978	986,032	1,031,309	※1 1,078,669	1,226,206	1,179,277	1,159,141	1,181,832	1,190,315
5 管理経費	343,191	400,594	418,557	420,585	434,356	409,279	412,804	419,911	422,889
6 その他支出(借入金利息等)	24,776	22,157	20,003	18,134	※2 87,548	15,690	13,192	10,654	8,118
7 事業活動支出②	3,995,562	4,244,046	4,270,476	4,395,836	4,744,212	4,606,248	4,632,287	4,688,490	4,698,280
8 事業活動収支差額③(①-②)	217,942	105,725	△ 123,461	△ 153,716	△ 330,957	△ 51,871	107,185	186,307	237,364
9 事業活動収支差額比率③/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	5.2%	2.4%	△ 3.0%	△ 3.6%	△ 7.5%	△ 1.1%	2.3%	3.8%	4.8%
10 人件費比率④/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	63.1%	65.2%	67.5%	67.9%	67.9%	65.9%	64.3%	63.1%	62.3%

※1・・・新校舎減価償却費増 ※2・・・大学校舎解体処分差額増

◆資金収支計算書

(単位:千円)

主な事業計画(要因)		GS校舎建築 駐車場造成	GS校舎建築 運動場造成	GS校舎利用開始 こども園園舎改築	大学校舎解体		大学校舎建築他		
項目	2023年度 決算	2024年度 決算	2025年度 予算	2026年度 中長期	2027年度 中長期	2028年度 中長期	2029年度 中長期	2030年度 中長期	2031年度 中長期
11 資金収支 収入の部 ⑤	4,196,715	4,436,167	4,307,015	4,476,097	4,829,553	4,631,509	5,288,054	4,886,797	4,947,644
12 借入金返済、返済利息	179,889	182,052	182,255	180,386	213,800	207,562	216,316	218,034	265,898
13 施設設備費(固定資産)※新規以外	169,308	298,641	123,002	107,108	13,586	85,224	594,612	86,472	86,568
14 新規事業(校舎建築改築・運動場整備等)	31,465	199,037	1,887,832	296,770	380,000	100,000	500,000	0	0
15 資金収支 支出の部 ⑥	4,017,547	4,515,694	6,098,610	4,549,895	4,857,717	4,587,918	5,048,538	4,609,303	4,678,595
16 資金収支差額 ⑦ (⑤-⑥)	179,168	△ 79,527	△ 1,791,595	△ 73,798	△ 28,163	43,592	239,517	277,494	269,049
17 次年度繰越支払資金⑧	5,035,159	4,955,632	3,164,037	3,090,239	3,062,075	3,105,667	3,345,184	3,622,677	3,891,726

中長期財務計画においては、教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。

財務計画は主な要点をベースとし、財務構造を人件費 60～65%、教育研究経費 20～25%、管理経費 5～7%、収支差額 3～7%を目安に策定しております。また、施設設備においても、大学1号館は建築 25 年以上、2・3 号館と中高校舎は 15 年以上となり、計画的に修繕を行う計画をしており、エアコン取替工事や校舎内蛍光灯のLED化を計画し、毎年実行しております。

2025 年度以降、事業活動収支差額、資金収支差額ともにマイナスと見込んでいる要因は、中・高等学校グローバルスクール用の校舎建築(2023～2025 年度)や教員採用等を計画しているためです。

校舎建築は、2020 年度に開設した聖隷クリストファー小学校の児童が、中学、高校と進学時に使用する校舎であり、既存の中・高等学校とは別校舎とするためです。この校舎の減価償却費を含めたこと、完成年度までは、生徒数が少人数でも設置に必要な教員数を配置する計画としているために収支差額がマイナスとなっています。

学園としては、大学の国際教育学部完成年度 2026 年度、さらに 2020 年度開設時に入学した小学生在が高校を卒業する 2031 年度までを収支状況に最も注視すべき期間であると認識しています。

具体的な施策については、現在、2031 年度までの学園中長期財務計画を策定しており、毎年、各部門、置かれている状況、課題を正しく理解し、緊急性、必要性なども考慮し、見直しを行っております。

なお、未完成の学部、学校が学年進行に伴い、収支は改善していく見通しです。

事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

(3) 施設等の状況 (2025 年 3 月 31 日現在)

現有施設の状況

土地

所在地	面積等	取得価額	摘 要
静岡県浜松市中央区三方原町 3453	41,813 m ²	434,456 千円	聖隷クリストファー大学キャンパス
	72,396 m ²	2,189,062 千円	聖隷クリストファー中高キャンパス
	501 m ²	57,133 千円	聖隷クリストファー小学校
静岡県浜松市中央区根洗町 746-1 他	1,324 m ²	55,392 千円	寄宿舍用地
静岡県浜松市中央区根洗町 1102-3 他	9,998 m ²	164,587 千円	学園グラウンド用地
静岡県浜松市中央区三方原町 2762 他	6,049 m ²	99,525 千円	クリストファーこども園(園舎・園庭)
合 計	132,081 m ²	3,000,155 千円	

校舎等

所在地	施設等(建物名称)	面積等	取得価額	帳簿価額
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	聖隷クリストファー大学(1号館)	9,068 m ²	2,367,992 千円	819,416 千円
	〃 (2号館)	4,026 m ²	749,337 千円	362,226 千円
	〃 (3号館)	4,727 m ²	938,697 千円	466,043 千円
	〃 (4号館)	1,199 m ²	233,422 千円	72,653 千円
	〃 (旧5号館旧棟)	2,623 m ²	305,909 千円	58,918 千円
	〃 (5号館)	5,134 m ²	948,838 千円	638,008 千円
	〃 (機械室)	11 m ²	1,124 千円	288 千円
	〃 (学生・同窓会館)	964 m ²	156,406 千円	36,691 千円
	〃 (キリスト教センター)	78 m ²	20,268 千円	5,931 千円
	〃 (第一体育館)	781 m ²	241,225 千円	100,580 千円
	〃 (第二体育館)	495 m ²	46,702 千円	13,202 千円
	〃 (第一テニスクラブハウス)	35 m ²	10,753 千円	1,446 千円
聖隷クリストファー大学 合計		29,141 m ²	6,020,673 千円	2,575,402 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	専門学校棟	574 m ²	160,760 千円	82,611 千円
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 合計		574 m ²	160,760 千円	82,611 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453 他	聖隷クリストファー中・高等学校(校舎)	9,347 m ²	1,753,859 千円	960,296 千円
	〃 (体育館)	4,369 m ²	824,494 千円	455,036 千円
	〃 (総合運動場クラブハウス)	176 m ²	35,155 千円	14,119 千円
	〃 (第二テニスクラブハウス)	106 m ²	17,379 千円	8,049 千円
	〃 (サッカー場クラブハウス)	193 m ²	44,737 千円	19,266 千円
	〃 (新ソフトボール場クラブハウス)	188 m ²	116,180 千円	108,980 千円
	〃 (野球部部室)	62 m ²	20,855 千円	8,079 千円
	〃 (ソフトボール場倉庫)	65 m ²	1,613 千円	200 千円
	〃 (寄宿舍 マンション M)	896 m ²	75,724 千円	75,724 千円
	〃 その他	132 m ²	100 千円	100 千円
聖隷クリストファー中・高等学校 合計		15,534 m ²	2,890,096 千円	1,649,849 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 3453	聖隷クリストファー小学校校舎	3,463 m ²	1,007,958 千円	848,121 千円
聖隷クリストファー小学校 合計		3,463 m ²	1,007,958 千円	848,121 千円
静岡県浜松市中央区 三方原町 2762	クリストファーこども園園舎	2,139 m ²	503,306 千円	298,712 千円
聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 合計		2,139 m ²	503,306 千円	298,712 千円
その他			29,800 千円	6,755 千円
総 合 計		50,851 m ²	10,612,593 千円	5,461,450 千円

3 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表は資産（土地や建物など）が何によってどのようなバランスで賄われているかを表し、財務の健全性を示したものです。

資産は、固定資産が対前年度比 6,173 万円増の 104 億 3,871 万円となり、流動資産は対前年度比 4,303 万円減の 51 億 6,842 万円となり、総資産額は対前年度比 1,870 万円増の 156 億 713 万円となりました。これらの主な要因は、有形固定資産の購入による増加と流動資産の減少によるものです。

負債は、負債の部合計が前年度比 8,702 万円減少の 37 億 4,183 万円となりました。主な要因は借入金の返済進行によるものです。

校舎建設、土地購入などによる借入金のための負債の割合が高いですが、総資産の 76.0% は自己資金で賄われていることにより、財務の安定性は十分な余力があることがわかります。

また、借入金は現状のキャッシュフローにおいて最短約 3.2 年での全額返済が可能であり、十分な返済能力を備えていると認識しております。

(単位: 百万円)

資産の部合計	15,607	負債の部合計	3,742
(主な内容)		(主な内容)	
		(借入金	1,404)
		(前受金	1,505)
(現金預金	4,956)	自己資金	11,865
(土地	3,000)		
(建物	5,461)		

【有利子負債返済可能年数】

$$\frac{\text{借入金 } 1,404 \text{ 百万円}}{\text{学校運営にかかる } 445 \text{ 百万円 } \text{キャッシュフロー}} = 3.2 \text{ 年}$$

◎経年比較

(単位: 千円)

	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末
固定資産	10,118,619	10,115,343	10,520,809	10,376,984	10,438,713
流動資産	4,683,921	4,959,069	5,008,354	5,211,446	5,168,417
資産の部合計	14,802,540	15,074,412	15,529,163	15,588,430	15,607,130
固定負債	2,009,884	1,908,511	2,070,535	1,923,025	1,793,688
流動負債	1,997,020	1,950,474	1,916,996	1,905,831	1,948,142
負債の部合計	4,006,904	3,858,985	3,987,531	3,828,856	3,741,830
基本金	15,893,807	16,290,555	16,844,508	17,210,780	17,844,840
繰越収支差額	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,876	△ 5,451,206	△ 5,979,540
純資産の部合計	10,795,636	11,215,427	11,541,632	11,759,574	11,865,300
負債及び純資産の部合計	14,802,540	15,074,412	15,529,163	15,588,430	15,607,130

イ) 財務比率の経年比較

区 分				評価	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	全国平均 2023年度
貸借対照表 関係比率	1	固定資産 構成比率	固 定 資 産 総 資 産	▼	68.4%	67.1%	67.7%	66.6%	66.9%	85.8%
	2	流動資産 構成比率	流 動 資 産 総 資 産	△	31.6%	32.9%	32.3%	33.4%	33.1%	14.2%
	3	固定負債 構成比率	固 定 負 債 総 負 債 + 純 資 産	▼	13.6%	12.7%	13.3%	12.3%	11.5%	6.4%
	4	流動負債 構成比率	流 動 負 債 総 負 債 + 純 資 産	▼	13.5%	12.9%	12.3%	12.2%	12.5%	5.3%
	5	運用資産 余裕比率	運 用 資 産 - 外 部 負 債 経 常 支 出	△	0.76年	0.82年	0.76年	0.83年	0.79年	1.97年
	6	流動比率	流 動 資 産 流 動 負 債	△	234.5%	254.2%	261.3%	273.4%	265.3%	267.1%
	7	総負債比率	総 負 債 総 資 産	▼	27.1%	25.6%	25.7%	24.6%	24.0%	11.8%
	9	基本金比率	基 本 金 基 本 金 要 組 入 額	△	90.5%	91.3%	90.6%	91.6%	92.5%	97.5%
	10	前受金保有率	現 金 預 金 前 受 金	△	290.8%	310.2%	323.3%	335.5%	329.4%	390.9%
	11	積立率	運 用 資 産 要 積 立 額	△	57.2%	58.3%	57.5%	57.5%	54.6%	75.9%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい —:どちらともいえない

※全国平均:2023(R5)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	2,713,748	2,855,963	2,901,118	2,923,018	2,911,358
手数料収入	60,149	58,929	59,359	52,407	52,219
寄付金収入	86,959	119,016	77,436	40,407	45,170
補助金収入	969,673	989,263	1,079,958	1,078,226	1,125,529
資産売却収入	0	11	0	693	350
付随事業・収益事業収入	22,792	25,390	22,471	21,384	35,650
受取利息・配当金収入	907	857	700	777	1,134
雑収入	97,803	90,058	64,810	89,126	165,367
借入金等収入	0	0	335,900	0	27,952
前受金収入	1,543,572	1,528,913	1,502,155	1,500,710	1,504,257
その他の収入	155,046	189,647	220,880	136,457	250,345
資金収入調整勘定	△ 1,664,295	△ 1,731,533	△ 1,654,968	△ 1,646,489	△ 1,683,164
前年度繰越支払資金	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159
収入の部合計	8,118,388	8,615,785	9,353,102	9,052,707	9,471,326

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	2,364,671	2,473,006	2,561,147	2,653,641	2,814,546
教育研究経費支出	569,627	615,874	678,073	653,078	667,171
管理経費支出	273,828	300,617	326,118	312,166	370,147
借入金等利息支出	25,303	22,980	21,089	22,609	20,632
借入金等返済支出	151,660	153,520	138,600	157,280	161,420
施設関係支出	97,121	183,179	637,981	116,701	445,800
設備関係支出	113,657	115,983	104,100	84,073	51,878
資産運用支出	454	0	0	800	0
その他の支出	204,156	211,635	199,253	178,229	164,146
資金支出調整勘定	△ 171,360	△ 204,292	△ 169,250	△ 161,029	△ 180,046
次年度繰越支払資金	4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159	4,955,632
支出の部合計	8,118,388	8,615,785	9,353,102	9,052,707	9,471,326

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

「資金収支計算書」は学校法人の資金の出入りを表す財務諸表で、一般企業のキャッシュフロー計算書に類するものです。2015年度から学校法人会計基準の改正に伴い、新たに活動区分ごとの資金の流れがわかる「活動区分資金収支計算書」の作成が義務付けられました。下記は活動区分ごとの示した表となっております。

2024年度は教育研究活動により発生した資金は4億4,505万円でした。施設・設備投資には4億9,768万円を充当しました。

これら法人全体の事業活動により、今年度は施設・設備投資を行ったため、前年度より資金が7,953万円減少しました。

(単位:千円)

科 目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	3,946,464	4,106,847	4,203,585	4,203,356	4,315,144
	教育活動資金支出計	3,208,126	3,389,497	3,559,278	3,618,885	3,851,863
	差引	738,338	717,350	644,307	584,471	463,281
	調整勘定等	60,656	△ 7,426	△ 3,708	△ 24,925	△ 18,231
	教育活動資金収支差額	798,994	709,924	640,599	559,546	445,050
施設設備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	3,659	30,784	1,567	1,906	10,667
	施設整備等活動資金支出計	210,777	299,162	742,081	200,774	497,679
	差引	△ 207,118	△ 268,378	△ 740,514	△ 198,868	△ 487,012
	調整勘定等	△ 34,624	18,729	20,432	△ 18,888	△ 16,831
	施設整備等活動資金収支差額	△ 241,742	△ 249,649	△ 720,082	△ 217,756	△ 503,843
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		557,252	460,275	△ 79,483	341,790	△ 58,793
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	56,072	13,377	369,522	11,656	144,974
	その他の活動資金支出計	184,201	218,465	187,988	187,217	185,747
	差引	△ 128,129	△ 205,088	181,534	△ 175,561	△ 40,773
	調整勘定等	△ 71,886	△ 1,175	10,657	12,939	20,039
	その他の活動資金収支差額	△ 200,015	△ 206,263	192,191	△ 162,622	△ 20,734
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		357,237	254,012	112,708	179,168	△ 79,527
前年度繰越支払資金		4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159
翌年度繰越支払資金		4,489,271	4,743,283	4,855,991	5,035,159	4,955,632

ウ) 財務比率の経年比較

区 分		評 価	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	全国平均 2023年度
教育活動資金 収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	△	20.2%	17.3%	15.2%	13.3%	10.3%	12.7%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい —:どちらともいえない

※全国平均:2022(R4)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書は学校運営の収入と支出の内容を表したもので、一般企業の損益計算書に類するものです。

事業活動収支差額は1億573万円のプラスとなりました。この収支差額は前年度決算額よりも1億1,222万円減少しています。

《各部門別》

(単位: 千円)									
科 目		法人	大学	高等学校	中学校	小学校	こども園	専門学校	合計
事業活動収入	学生生徒等納付金	0	2,174,997	435,200	96,592	160,670	21,569	22,330	2,911,358
	手数料(入学検定料含む)	0	32,177	17,752	595	945	0	750	52,219
	寄付金	0	26,281	13,017	1,914	2,521	156	240	44,129
	補助金	0	308,256	388,385	64,987	92,758	261,345	601	1,116,332
	付随事業・雑収入等	33,667	115,105	18,888	1,331	1,485	20,593	116	191,185
	教育活動外収入(受取利息等)	9,850	692	223	41	64	75	6	10,951
	特別収入(施設設備、現物寄付金等)	0	13,197	8,320	914	1,090	76	0	23,597
合 計		43,517	2,670,705	881,785	166,374	259,533	303,814	24,043	4,349,771
事業活動支出	人件費	82,147	1,652,546	485,031	151,171	228,712	200,010	35,646	2,835,263
	教育研究経費	0	598,362	205,554	30,051	73,721	64,823	13,521	986,032
	(うち減価償却額)	0	153,874	87,562	4,953	46,808	20,668	4,915	318,780
	管理経費	52,290	161,915	99,769	28,363	45,858	7,212	5,187	400,594
	(うち減価償却額)	8,147	7,577	626	146	311	233	94	17,134
	徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出(借入金利息等)	0	4,716	15,915	0	0	0	0	20,631
	特別支出(資産処分差額等)	24	20	1,460	22	0		0	1,526
合 計		134,461	2,417,559	807,729	209,607	348,291	272,045	54,354	4,244,046
経 常 収 支 差 額		△ 90,920	239,969	67,196	△ 44,125	△ 89,848	31,693	△ 30,311	83,654
事 業 活 動 収 支 差 額		△ 90,944	253,146	74,056	△ 43,233	△ 88,758	31,769	△ 30,311	105,725

◎経年比較

		(単位: 千円)				
科目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,713,748	2,855,963	2,901,118	2,923,018	2,911,358
	手数料	60,149	58,929	59,359	52,407	52,219
	寄付金	85,488	117,546	75,918	39,238	44,129
	経常費等補助金	967,620	959,961	1,079,958	1,078,226	1,116,332
	付随事業収入	21,792	24,390	22,471	21,384	25,833
	雑収入	100,187	90,058	64,810	89,126	165,352
	教育活動収入 計	3,948,984	4,106,847	4,203,634	4,203,399	4,315,223
	事業活動支出の部					
	人件費	2,372,133	2,483,157	2,544,088	2,659,617	2,835,263
	教育研究経費	840,864	889,001	965,449	967,978	986,032
	管理経費	309,059	335,568	353,635	343,191	400,594
	徴収不能額等	0	9	0	525	0
	教育活動支出 計	3,522,056	3,707,735	3,863,172	3,971,311	4,221,889
	教育活動収支差額	426,928	399,112	340,462	232,088	93,334

(単位:千円)

科目		年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動外収支	事業活動収入の部						
	受取利息・配当金		907	857	700	777	1,134
	その他の教育活動外収入		1,000	1,000	0	0	9,817
	教育活動外収入 計		1,907	1,857	700	777	10,951
	事業活動支出の部						
	借入金等利息		25,303	22,980	21,089	22,609	20,631
	その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計		25,303	22,980	21,089	22,609	20,631
教育活動外収支差額			△ 23,396	△ 21,123	△ 20,389	△ 21,832	△ 9,680
経常収支差額			403,532	377,989	320,073	210,256	83,654
特別収支	事業活動収入の部						
	資産売却差額		0	0	0	693	350
	その他の特別収入		13,462	42,483	12,324	8,635	23,247
	特別収入 計		13,462	42,483	12,324	9,328	23,597
	事業活動支出の部						
	資産処分差額		1,186	681	132	1,642	1,526
	その他の特別支出		21,547	0	6,060	0	0
	特別支出 計		22,733	681	6,192	1,642	1,526
特別収支差額			△ 9,271	41,802	6,132	7,686	22,071
基本金組入前当年度収支差額			394,260	419,791	326,205	217,942	105,725
基本金組入額合計			△ 406,093	△ 404,109	△ 553,954	△ 366,271	△ 634,059
当年度収支差額			△ 11,833	15,682	△ 227,749	△ 148,329	△ 528,334
前年度繰越収支差額			△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,877	△ 5,451,206
基本金取崩額			955	7,361	0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,877	△ 5,451,206	△ 5,979,540

(参考)

事業活動収入 計	3,964,353	4,151,187	4,216,658	4,213,504	4,349,771
事業活動支出 計	3,570,092	3,731,396	3,890,453	3,995,562	4,244,046

イ) 財務比率の経年比較

区 分				評価	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	全国平均 2023年度
事業活動収支計算書関係比率	1	人件費比率	人 件 費 経 常 収 入	▼	60.0%	60.4%	60.5%	63.3%	65.5%	50.9%
	2	人件費依存率	人 件 費 学 生 生 徒 等 納 付 金	▼	87.4%	86.9%	87.7%	91.0%	97.4%	69.8%
	3	教育研究 経費比率	教 育 研 究 経 費 経 常 収 入	△	21.3%	21.6%	23.0%	23.0%	22.8%	36.6%
	4	管理経費比率	管 理 経 費 経 常 収 入	▼	7.8%	8.2%	8.4%	8.2%	9.3%	8.7%
	5	借入金等 利息比率	借 入 金 等 利 息 経 常 収 入	▼	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.1%
	6	事業活動収支 差額比率	基本金組入前当年度 収 支 差 額 事 業 活 動 収 入	△	9.9%	10.1%	7.7%	5.2%	2.4%	4.2%
	7	基本金組入後 収支比率	事 業 活 動 支 出 事業活動収入－基本金組入額	▼	100.3%	99.6%	106.2%	103.9%	114.2%	106.1%
	8	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学 生 生 徒 等 納 付 金 経 常 収 入	－	68.7%	69.5%	69.0%	69.5%	67.3%	72.9%

区 分			評価	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	全国平均 2023年度
事業活動収支計算書関係比率	9	寄付金比率 寄 付 金 事 業 活 動 収 入	△	2.4%	3.1%	2.1%	1.1%	1.3%	2.2%
	10	補助金比率 補 助 金 事 業 活 動 収 入	△	24.5%	23.8%	25.6%	25.6%	25.9%	14.4%
	11	基本金組入率 基 本 金 組 入 額 事 業 活 動 収 入	△	10.2%	9.7%	13.1%	8.7%	14.6%	9.7%
	12	減価償却額比率 減 価 償 却 額 経 常 支 出	－	8.1%	7.8%	7.8%	8.3%	7.9%	11.4%
	13	経常収支差額比率 経 常 収 支 差 額 経 常 収 入	△	10.2%	9.2%	7.6%	5.0%	1.9%	3.5%
	14	教育活動収支差額比率 教 育 活 動 収 支 差 額 教 育 活 動 収 入 計	△	10.8%	9.7%	8.1%	5.5%	2.2%	1.2%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい ー:どちらともいえない

※全国平均:2022(R4)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

(2) その他

① 有価証券の状況

所有しておりません

② 借入金の状況

(単位:円)

借 入 先	期末残高	摘 要
		使 途
日本私立学校振興・共済事業団	748,420,000	大学5号館建築、運動場用地 労作用地、セミナーハウス棟建築 新ソフトボール場整備
遠州信用金庫中川支店	180,400,000	高校校舎用地購入、高校校舎建築
りそな銀行浜松支店	64,000,000	高校校舎建築
浜松磐田信用金庫三方原支店	210,850,000	高校校舎用地購入、運動場整備 校舎建築、大学5号館建築
静岡銀行浜松営業部	177,100,000	高校校舎建築、大学3号館建築
清水銀行 曳馬支店	23,792,000	寄宿舍(マンションM)
合 計	1,404,562,000	

③ 学校債の状況

発行しておりません

④ 寄付金の状況

(単位:円)

区分	氏 名	金 額	用途・品目等
一般寄付金	個人(3名)	124,155	
	聖隷クリスファー中・高等学校PTA様	2,676,421	
	聖隷クリスファー中・高等学校学年会計様	8,537,067	
	聖隷クリスファー中学校 グローバルスクールコース学年会計様	263,232	
	聖隷クリスファー小学校学年会計様	1,860,684	
	合 計	13,461,559	
特別寄付金	個人(142名)	3,530,000	図書購入資金、部活動支援 他
	公益財団法人フランスペッド・ホームケア財団様	350,000	研究費
	細江町国際交流協会様	100,000	国際交流費用
	聖隷クリスファー大学同窓会様	100,000	図書購入資金
	聖隷クリスファー大学後援会様	25,906,584	スクールバス補助、学生食堂光熱水費 他
	聖隷クリスファー中・高等学校PTA様	1,645,669	学生用コピー用紙補助、カフェテリア経費
	クリスファーこども園保護者会様	22,752	こども園内コピー用紙代
	クリスファーこども園2023年度卒園児様	53,388	卒園記念品購入資金
	合 計	31,708,393	
現物寄付金	個人(27名)	12,840,602	科研費補助金購入備品 他
	クリスファーこども園2023年度卒園児様	64,620	食具(トレイ)
	クリスファーこども園2024年度卒園児様	89,577	絵本、カプラブロック
	合 計	12,994,799	

寄付金合計 58,164,751

⑤ 補助金の状況

(単位:円)

補助金名称	交付団体	施設	決定金額
私立大学等経常費補助金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	233,524,000
大学等における修学の支援に関する法律による令和6事業年度授業料等減免費交付金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	74,361,900
理科教育設備整備費等補助金	文部科学省	中学	161,000
令和6年度私立学校施設整備費補助金	文部科学省	大学	9,197,000
私立学校経常費補助金	静岡県	高校	329,024,000
		中学	63,912,000
		小学校	89,319,000
静岡県私立高等学校授業料減免事業費補助金	静岡県	高校	55,691,400
私立学校物価高騰対策支援金	静岡県	高校	1,764,000
		中学	304,000
		小学校	468,000
高等学校等就学支援金事務費補助金	静岡県	高校	474,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金(学習指導員配置等事業)	静岡県	小学校	900,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金(スクールカウンセラー配置等事業)	静岡県	小学校	600,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金(ICT教育環境整備推進事業)	静岡県	小学校	574,000
令和6年度私立専門学校就学支援事業費補助金	静岡県	専門学校	590,000
保育士キャリアアップ研修受講支援事業費補助金	静岡県	こども園	14,700
結核健康診断費補助金	浜松市	大・高・専門	661,613
私立学校教育振興事業費補助金	浜松市	小・中・高	2,658,000
施設型給付費	浜松市	こども園	224,012,456
私立保育所等事業費補助金	浜松市	こども園	13,042,800
私立保育所等入所児童処遇向上費補助金	浜松市	こども園	12,143,000
浜松市幼稚園型一時預かり事業費補助金	浜松市	こども園	3,844,500
浜松市保育所保育補助雇上強化事業	浜松市	こども園	3,117,000
浜松市在園児下の子の優先利用支援事業費補助金	浜松市	こども園	2,406,000
保育施設等物価高騰対策助成事業(光熱費・給食費)	浜松市	こども園	34,720
保育施設等物価高騰対策助成事業(給食費の物価高騰対策事業)	浜松市	こども園	1,039,500
子ども子育て支援教育・保育給付費	森町	こども園	699,028
子ども子育て支援教育・保育給付費	菊川市	こども園	765,796
子ども子育て支援教育・保育給付費	豊川市	こども園	225,644
合計			1,125,529,057

⑥ 収益事業の状況

本法人は、私立学校法に基づく収益事業(貸家業)を 2019 年度から行っていましたが、文部科学省の収益事業廃止の認可の日の 2024 年(令和 6 年)6 月 21 日をもって終了いたしました。

終了にあたり、建物土地等の資産、借入金等の負債、元入金・利益剰余金等はすべて学校会計に繰り入れましたので、貸借対照表はありません。

収益事業会計 損益計算書

令和6年 4月 1日から

令和6年 6月21日まで (単位：円)

科目	金額
1. 営業損益	
(1) 営業収益	
家賃収入	1,632,000
計	1,632,000
(2) 営業費用	
報酬委託手数料	139,150
水道光熱費	217,375
建物保全費	78,100
減価償却費	733,468
雑費	1,760
計	1,169,853
営業利益	462,147
2. 営業外損益	
(1) 営業外収入	
雑収入	1,500
計	1,500
(2) 営業外費用	
支払利息	49,538
計	49,538
経常利益	414,109
学校会計繰入前利益	414,109
学校会計繰入支出	9,817,036
税引き前当期純損失	△ 9,402,927
法人税、住民税及び事業税	0
当期純損失	△ 9,402,927
前期繰越利益	9,402,927
繰越利益剰余金	0

注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

…定額法を採用している。

(2) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

…消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式を採用している。

2. 減価償却額の累計額の合計額 12,939,020円

3. 収益事業会計は、文部科学省の収益事業廃止の認可の日(令和6年6月21日)を

もって終了いたしました。収益事業会計の資産負債は、同日をもって、すべて

学校会計に繰り入れているため、収益事業会計の貸借対照表は作成しておりません。

⑦ 関連当事者等との取引の状況

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	役員、法人等の 名称	住所	資本金又は 出資金	事業内容 又は職業	議決権の 所有割合	関係の内容		取引の内容	取引金額	勘定 科目	期末 残高
						役員の 兼任等	事業上の 関係				
学園長	長谷川 了	—	—	—	—	—	—	当法人の借入に対する債務被保証(注1)	0	—	—
理事	青木 善治	—	—	社会福祉法人 聖隷福祉 事業団 理事長	—	—	設備の賃借	実習控室借用料(注2)	3,960,000	教育研究 経費	—
							健康診断 委託	学生生徒検診 委託料(注2)	3,864,674	教育研究 経費	—
							健康診断 委託	教職員検診 委託料(注2)	3,348,675	管理経費	—
							実習受入	実習受入謝礼(注2)	3,916,800	教育研究 経費	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

※取引金額は消費税込み

(注1)当法人は、金融機関等からの借入に対して、学園長 長谷川了より債務保証を受けていた。

令和6年11月までに、長谷川了による債務保証は全て解除しており、令和7年3月末には、関連当事者による債務被保証の残高はない。

なお、令和6年11月までの期間において、保証料の支払いは行っていない。

(注2)理事 青木善治が、第三者(社会福祉法人 聖隷福祉事業団)の代表者として行っている取引である。

取引条件は双方協議の上、契約等に基づき決定している。

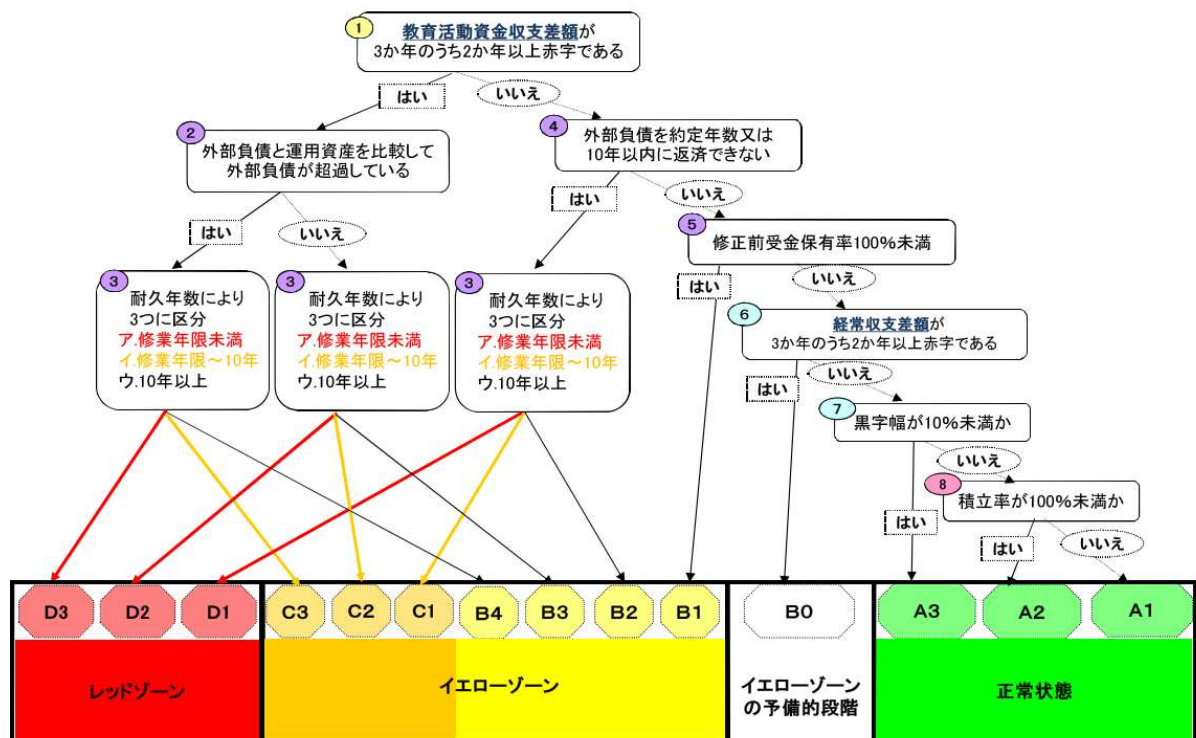
⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

① 経営判断指標に基づく学校法人経営状態の区分から

日本私立学校振興・共済事業団では、私立学校への適切な指導を行うために、学校法人の経営状態を定量的な指標により 14 通りに分類しています。この指標に基づき自己診断したところ、本学園は経常収支差額比率 1.9%で、A3 ランクに分類され、財務状況は正常な状態にあります。



② 2024 年度決算概要について

学生・生徒・児童・園児数は、学園全体で 3,112 名となり、前年度から 98 名減少しています。定員充足率は学園全体で 94.8%（前年度 3.9%減）となりました。減少理由は、高等学校において 100 名近く定員超過で入学した年度の生徒が卒業したことによるものです。

事業活動収入は、4,349,771 千円（対前年度 136,267 千円増）、事業活動支出は 4,244,046 千円（対前年度 248,484 千円増）となり、収支差額は 105,725 千円（対前年度 112,217 千円減）となりました。収入については、高校生徒減に伴い納付金が 11,660 千円減となりましたが、補助金は 47,303 千円増などにより収入増となりました。一方、支出で大きな割合を占める人件費は、小学校、グローバルスクールコース(中学校)の学年進行に伴う教員増、また、人事院勧告に伴う人件費増の為、103,176 千円の増加(退職給与引当金繰入額除く)となりました。収入増より人件費が増加したことで、人件費比率は法人全体で 65.5%（同 2.2 ポイント増）となりました。

施設・設備の整備については、グローバルスクール校舎建築費用として、2024 年度は、総建築費 10%分の支払を始め、設計管理料、行政への申請費用 203,265 千円を執行しました。その他として、中高体育館エアコン設置 28,116 千円(補助金採択)、学生・教職員用駐車場整備 29,113 千円、中高体育館サッシ取替など 主に既存施設の取替修理を行いました。

また、学生の満足度調査への対応として、昨年度と同様、PC を利用しながら授業が受けやすくなるよう少し幅広い机に変更するなど、教育環境の改善を図りました。

こうした状況のもとで、2024 年度の事業活動収支差額比率は、法人全体で 2.4%（対前年度比 2.8 ポイント減）となりました。

法人全体における教育活動のキャッシュフローは 445,050 千円（2023 年度 559,546 千円）のプラスになります。施設整備等活動のキャッシュフローは△487,012 千円で、これは前述の施設・設備の整備によるものです。その他活動のキャッシュフローは△20,734 千円となります。次年度繰越支払資金は 79,527 千円減となり、繰越支払資金は 4,955,632 千円となりました。

今後も教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

各学校の入学入園者を確保するには、各学校の特色ある教育保育を充実させ、本学園の教育内容を広く知っていただき、そして、選ばれる学校になるよう今後も努力してまいります。

2025 年度は、2026 年 3 月完成予定のグローバルスクール校舎の建築費や備品購入費として約 17 億円ほど想定しており、収支は一時的マイナスとなる見通しです。中長期財務計画をひとつの指標とし、予算、補正予算編成、予算執行について、各部門の状況を把握しながら、丁寧に行ってまいります。

③各学校別財務比率から

<学校法人全体の主要財務指標の内容>

ここでは主に下記の指標を用いて 2024 年度決算における経営状況および改善傾向を把握することができます。

①収容定員充足率 = 学生現員 ÷ 収容定員

定員に対する学生数の割合を示したものです。100%であることが理想です。

②経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入

③流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

短期的な資金繰りの余裕度合を表したもので、150～200%が理想的です。

④運用資産余裕比率 = (運用資産^{*1} - 外部負債^{*2}) ÷ 経常支出 …法人全体のみ

*1 運用資産=現預金+特定預金 *2 外部負債=総負債-退職給与引当金-前受金

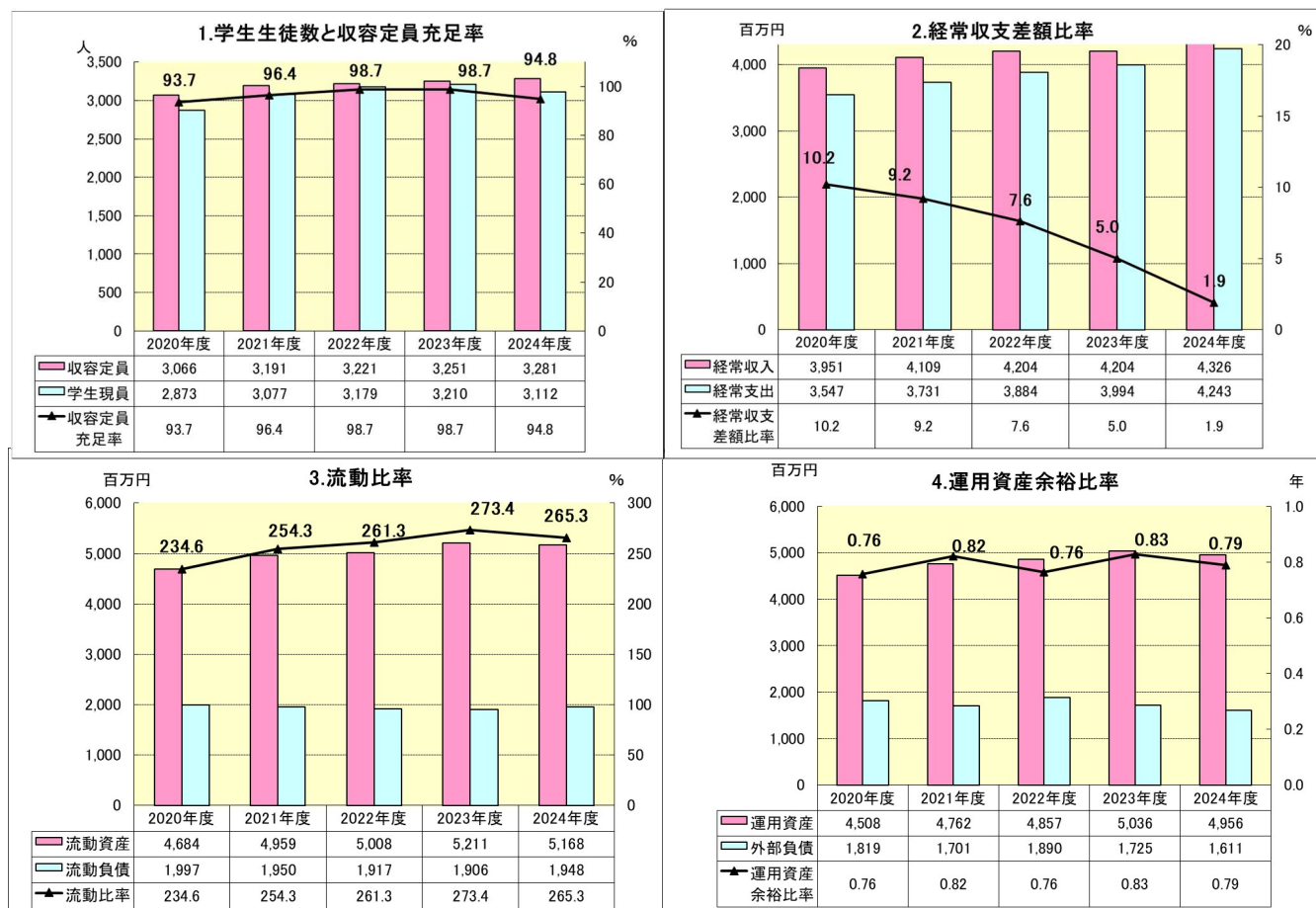
実質的な運用資産を年間の支出に対してどれだけ保有しているかを示すものです。

法人全体

2024 年度は小学校開設 5 年目を迎え、法人全体の収容定員充足率 94.8%となりました。経常収支差額比率 1.9%、流動比率は 265.3%、運用資産余裕比率は 0.79 年となっております。

2024 年度は、経常収支差額比率を始め、全体的に各比率が下がっております。これは、新校舎の建築、小学校やグローバルスクールコースの未完成により収支バランスを崩していることなどが要因となりますが、今後、学年進行により、学生生徒が増加することにより、徐々に改善していくことと思われます。

2024 年度決算(法人全体)



◆ 各学校の主要財務指標の内容

学校別の財務内容については下記指標を用いて算出しました。

①収容定員充足率 = 学生(生徒・園児)現員 ÷ 収容定員

②経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入

③人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入

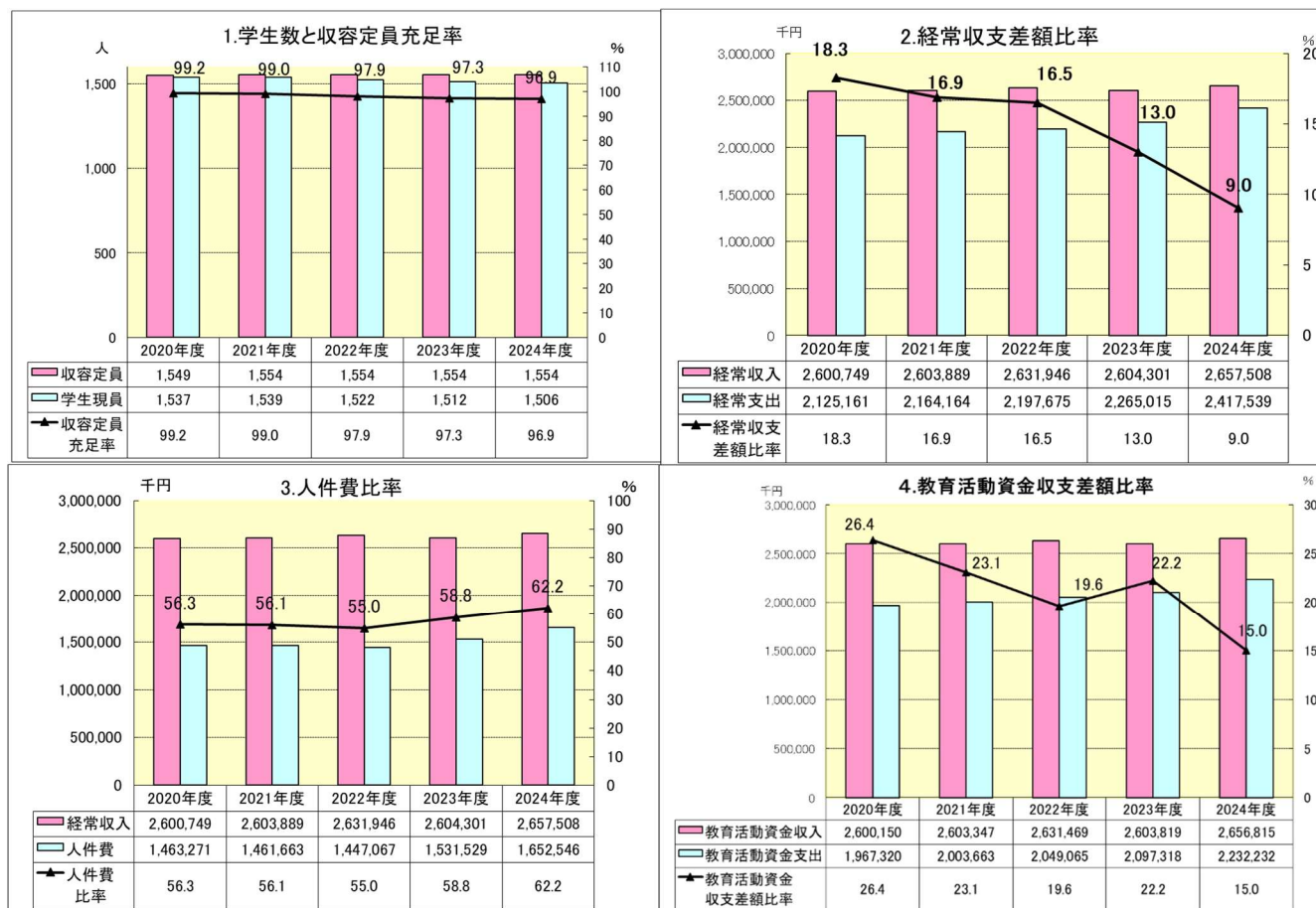
経常収入に対する教職員の人件費の割合を表したものです。

④教育活動資金収支差額比率 = 教育活動資金収支差額 ÷ 教育活動資金収入計

教育活動でキャッシュフローが生み出されているかを表したものです

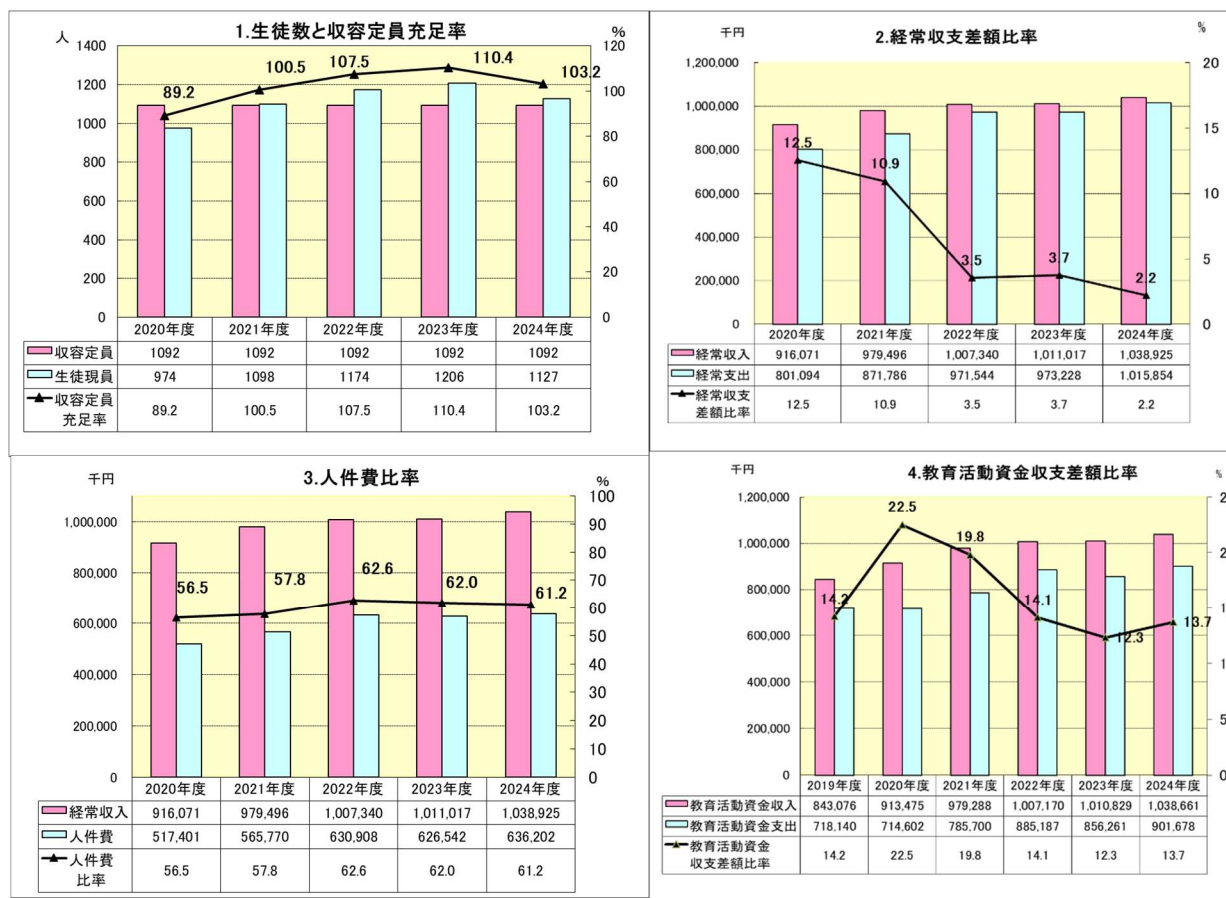
聖隷クリストファー大学

2024 年度決算（大学全体）



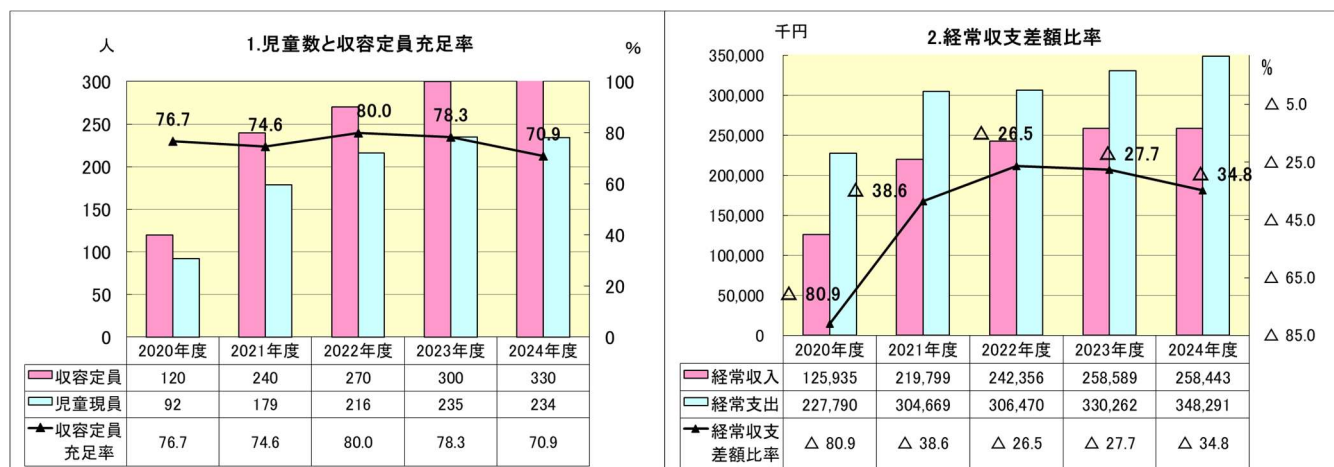
聖隷クリストファー中・高等学校

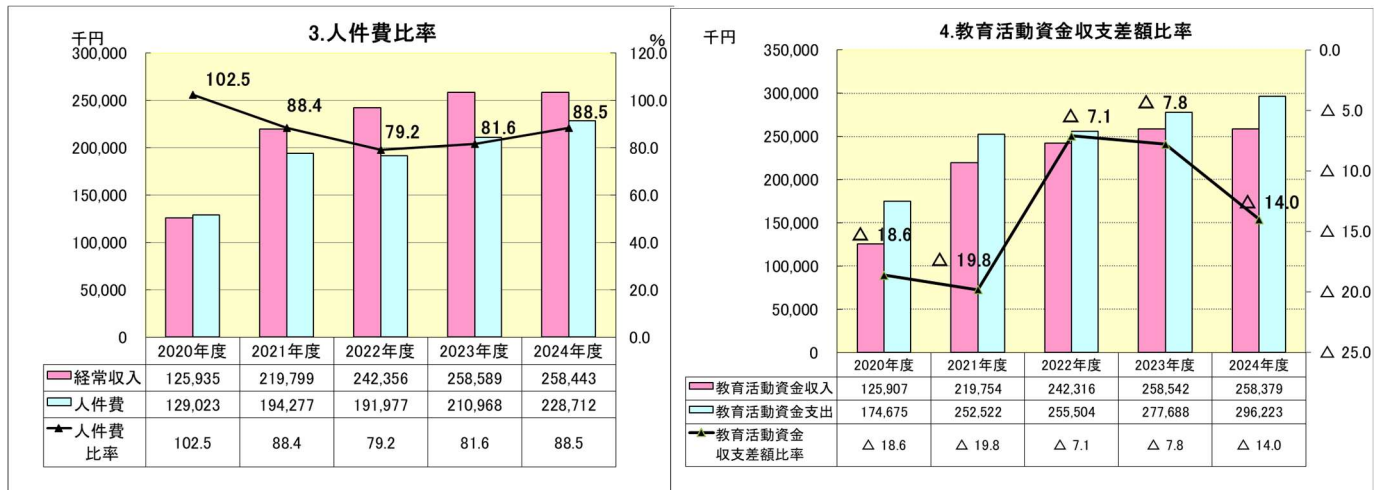
2024 年度決算（中・高等学校）



聖隷クリストファー小学校

2024 年度決算（小学校）





聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

2024 年度決算（こども園）



聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

2024 年度決算（専門学校）

